Ⅳ. 教育学専攻授業科目の概要

共通科目

授業科目名（○印は開放科目）	担当者	講義概要	達成目標	成績評価基準
○現代教育論	内田純一・岡谷英明・馬場園陽一・藤田尚文・金山元春・柳林信彦・古口高志・寺田信一・稲富眞彦・是永かな子	教育学専攻すべての学生を対象に、現代の日本が抱える教育課題を幅広い視点から理解させる	現代日本が抱える教育課題について理解できる	出席およびレポートにより総合的に判断する。

学校教育コース

授業科目名（○印は開放科目）	担当者	講義概要	達成目標	成績評価基準
○子ども医学論	北添紀子	子どものこころと身体の発達を学ぶ。また、子どもをサポートする様々な視点についてチーム医療を通じて学ぶ。	学校現場で必要な子どものこころと身体の医学的な基礎知識を習得し、学校現場での疑問点と重ねて考えられるようになる。	出席態度、レポートもしくは試験の点数を総合する。
○研修マネジメント	島田希	教員研修をめぐる今日的動向および課題を取り上げ、具体的な取り組みを多角的に分析することを通じて、教員研修の制度およびその意義、課題について理解する。	ライフステージに応じた教員研修の意義および課題について理解し、教師の力量形成について考察をまとめることができる。	出席状況、授業における発表やグループディスカッション、期末レポートにより総合評価する。
○学校教育・教職特論	岡谷英明	学校教育・教職論の基本文献ならびに研究書の講読を通じて、学校教育・教職論における研究の基本的な論点を検討する。	学校教育の公共性について議論できる	出席、ディスカッション、レポートの内容を総合的に判断する
○道徳教育持論	田邊重任	道徳的実践力育成の視点から、道徳をとりまく問題状況を明らかにし、道徳教育の指導原理や道徳の時間の特質と指導上の課題を取り上げ、道徳教育充実に向けた方策を検討する。	道徳教育の指導原理を理解し、道徳的実践力を育成することができる教員としての指導力を身に付ける。	出席、ディスカッション、レポートの内容を総合的に評価する。
○学校経営特論	未定	学校の経営過程や組織的特性に関する基本的事項について学習するとともに、開かれた学校づくりや学級崩壊など、最近とくに話題となっている問題についてアプローチするための視点や方法を検討する。		
○生徒指導特論	加藤誠之	青少年問題に関する文献（精神医学，心理学，社会学，法学などを想定している）の購読を通じて児童生徒の諸問題に関する基本的な論点を学ぶとともに，当該問題への対応について検討する。	我が国の青少年問題に関する研究史を把握するとともに，当該問題への対応について自分なりの視点を持つ。	出席，ディスカッションの内容，レポートの内容に基づいて判断する。
○地域教育特論	内田純一	地域教育実践の分析検討を通して教育実践者としての知見を養う	教育実践に対する理解を深めるとともに、その実践的研究課題に対する主体的な問題意識を獲得する。	授業時の参加意欲、文献講読の内容、最終レポートを総合的に判断する。
○教育相談特論Ⅰ	金山元春	学校教育に役立つ教育相談について学ぶ。	児童生徒の援助ニーズを把握し、ニーズに応じた援助活動を行うために必要となる視点を身につける。	出席、ゼミ形式発表の成果を総合して評価する。
○教育相談特論Ⅱ	古口　高志	子どもたちに見られる様々な教育臨床的問題，特に「心理社会的ストレス」と「ストレス関連疾患・問題」について学習する。	心理学の基礎知識を踏まえながら，子どもたちの「心理社会的ストレス」や「ストレス関連疾患・問題」について理解することができる。	出席状況，文献輪読・論文抄読に対する取り組み，討議への参加意欲を総合して評価する。
○学習指導特論	馬場園陽一	教育心理学的見地から、新しい教授理論や学習理論を生かして、学習指導と教育評価の一体化を目指した授業づくりについて学習する。	習得・活用・探求といった視点から学力を育てる学習指導方法や教育評価方法についての理解を深め、学習指導の開発に役立たせることができる。	出席、レポート発表、学習意欲等を総合して評価する。
○教育心理特論	藤田尚文	パーソナリティの発達とパーソナリティ障害、親の養育態度と子どもの育ちなどについて学習する。	パーソナリティ障害におけるDSM-4の基準に従って、パーソナリティが理解できるようになる。親の養育態度の標準的な理解ができる。	レポートの評価が8割。出席と授業についての発言が2割。
○教育制度特論	柳林信彦	現代日本の教育政策・教育制度のあり様や、その発展方向と課題、および、諸外国における教育改革に関する政策について検討する。特に分権改革期の学校と教育委員会との関係について考察する。	国内外の教育制度改革に関する基本的な知識を身につけ、分権的教育改革についての独自の分析視点を持つことができる。	出席、ゼミへの参加度、及び、発表の成果を総合する
○教育社会学特論	未定	授業テーマ：逸脱／教育問題の臨床学的教育社会学 目的： (1)社会学における逸脱／教育問題の諸理論を探求する。 (2)逸脱／教育問題解決のための具体的な教育実践を学ぶ。 (3)逸脱／教育問題の諸理論を用いて臨床学的に教育実践を考察する。	逸脱/教育問題について理解できる	出席、レポート点を総合的に判断する
学校教育・教職演習	岡谷英明	産業社会から消費社会といった、社会変化の観点から、学校教育・教職問題を考察するとともに、あわせて学校教育・教職問題を考察するために必要な知と技法を身につける。	ポスト産業社会における学校教育のあり方について議論できる	出席、ディスカッション、レポートの内容を総合的に判断する
道徳教育演習	田邊重任	我が国で行われている道徳授業の実際を提示し、そこに内在する問題点を明確化し、道徳授業の改善に向けた方策を検討する。	道徳授業を改善できる具体的な指導力を身に付ける。	出席、模擬授業、レポートを総合的に判断する。

授業科目名（〇印は開放科目）	担当者	講義概要	達成目標	成績評価基準
学校経営演習	未定	「学校の有効性」（school effectiveness）を理論・ケーススタディ・事例研究などの様々な側面から演習し、考察を深める。		
生徒指導演習	加藤誠之	生徒指導に関する実践記録を読んでディスカッションを行い，今日の生徒指導に何を生かしていけるかについて考察する。	生徒指導に関する過去の実践史を把握するとともに，これを今日の生徒指導にどう生かしていけるかについて自分なりの知見を持つ。	出席，ディスカッションの内容，レポートの内容に基づいて判断する。
地域教育演習	内田純一	地域教育実践の省察・交流と教育実践力の獲得・向上	修士論文作成に向け、主体的な研究方法論の力量を向上させる。	授業時の参加意欲、文献講読の内容、最終レポートを総合的に判断する
教育相談演習Ⅰ	金山元春	演習課題を通じて、教育相談の実践力の向上をはかる。	教育相談の実践力を向上させるための自己研修の指針を得る。	出席、実践演習の成果を総合して評価する。
教育相談演習Ⅱ	古口　高志	子どもたちが抱える様々なストレス関連疾患・問題について，具体的なアセスメント方法と対応方法について学習する。	様々なストレス関連疾患・問題の特徴等を踏まえながら，具体的で効果的なアセスメント技法を理解・習得することができる。	出席状況，文献輪読・論文抄読に対する取り組み，討議への参加意欲を総合して評価する。
学習指導演習	馬場園陽一	子どもの学習能力の育成や新しい学習指導法に関する文献や論文などの資料収集、今日の学校教育現場における授業実践や授業研究の成果などを参考にしながら、確かな学力を育成する学習指導法の開発を行うことができる研究能力を育成する。	学習指導や教育評価に関する論文や文献を参考にしながら、学習指導法の開発に発展できる力を育てる。	出席、レポート発表、学習意欲等を総合して評価する。
教育心理演習	藤田尚文	学習意欲と学力問題についての文献講読を行なう。	・学習意欲と学力の関係について議論ができる。 ・学力問題に関する標準的な文献についての知識を有する。	授業の発表が6割、発言が2割、出席が2割。
教育制度演習	柳林信彦	教育行政学や教育政治学、比較教育学、あるいは教育法学等の視点から現代的な教育改革政策を分析するための知識と力量の形成を目的とする。	教育制度分析のための様々な研究視角を身につけ、独自の教育制度分析ができるようになる	出席、ゼミへの参加度、及び、発表の成果を総合する
教育社会学演習	未定	近年における教育社会学の研究成果についての理解を深め、社会学的な研究の視点を養う。	教育社会学の研究成果を批判的に検討できる	出席、レポート点を総合的に判断する
教育実践研究（学校教育）Ⅰ	内田純一・岡谷英明・柳林信彦・田邊重任・加藤誠之・馬場園陽一・藤田尚文・金山元春・古口高志	附属学校園や、地域における児童生徒の教育に関わる諸機関と連携しながら、児童生徒の学習や発達及び学校教育に関わる教育学的、或いは教育心理学的な課題を理論的･実証的に研究することを指導する。	研究テーマを設定して研究目的、研究方法、結果の分析、考察、報告書の作成ができるようにする。	課題設定力、研究計画力、分析力、考察力等を総合して評価する。
教育実践研究（学校教育）Ⅱ	内田純一・岡谷英明・柳林信彦・田邊重任・加藤誠之・馬場園陽一・藤田尚文・金山元春・古口高志	附属学校園や、地域における児童生徒の教育に関わる諸機関と連携しながら、児童生徒の学習や発達及び学校教育に関わる教育学的、或いは教育心理学的な課題を理論的･実証的に研究することを指導する。	研究テーマを設定して研究目的、研究方法、結果の分析、考察、報告書の作成ができるようにする。	課題設定力、研究計画力、分析力、考察力等を総合して評価する。
長期インターンシップ（学校教育）Ⅰ	内田純一・岡谷英明・柳林信彦・田邊重任・加藤誠之・馬場園陽一・藤田尚文・金山元春・古口高志	学校現場や教育機関での実践的な学びを通じて、学校教育に関する専門的な力量形成をめざす。	授業計画、授業方法、教材研究、教育評価、児童生徒理解などを踏まえて効果的な教育指導の方法を立案し、実施することができるようになる。	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、研究計画書およびその作成過程に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（学校教育）Ⅱ	内田純一・岡谷英明・柳林信彦・田邊重任・加藤誠之・馬場園陽一・藤田尚文・金山元春・古口高志	学校現場や教育機関での実践的な学びを通じて、学校教育に関する専門的な力量形成をめざす。	授業計画、授業方法、教材研究、教育評価、児童生徒理解などを踏まえて効果的な教育指導の方法を立案し、実施することができるようになる。	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、指導案、公開研究授業の実施内容や状況、実習報告書に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（学校教育）Ⅲ	内田純一・岡谷英明・柳林信彦・田邊重任・加藤誠之・馬場園陽一・藤田尚文・金山元春・古口高志	学校現場や教育機関での実践的な学びを通じて、学校教育に関する専門的な力量形成をめざす実習を効果的なものにするための事前準備と事後評価。	授業計画、授業方法、教材研究、教育評価、児童生徒理解などを踏まえて効果的な教育指導の方法を立案し、実施することができるようになる。	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、授業研究会または事例研究会の企画・実施状況やそれまでの過程に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（学校教育）Ⅳ	内田純一・岡谷英明・柳林信彦・田邊重任・加藤誠之・馬場園陽一・藤田尚文・金山元春・古口高志	学校現場や教育機関での実践的な学びの総合的な振り返りを通じて、学校教育に関する高度な専門的力量形成をめざす。	授業計画、授業方法、教材研究、教育評価、児童生徒理解などを踏まえて効果的な教育指導の方法を立案し、実施することができるようになる。	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、事後報告会及び最終報告書やその実施及び作成過程に基づいて評価を行う。

特別支援教育コース

授業科目名（○印は開放科目）	担当者	講義概要	達成目標	成績評価基準
○特別支援教育学特論	是永かな子	日本における障害児教育、特別ニーズ教育、特別支援教育をめぐる課題・論点を整理するため、通常教育、障害児教育、特別ニーズ教育、特別支援教育の動向を検討する。講読予定の文献は随時提示する。内容に関する補足を行いながら、輪読する。毎回のレジュメ発表は分担するが、最後に受講者全員で文献の内容について討論する。幅広く教育の問題を議論し、現代の教育において何を考えるべきかを考察する。本特論では同時に、ディスカッションスキルを身につけること、文献を読む力をつけること、論理的思考力を身につけることを目的とする。	日本における障害児教育、特別ニーズ教育、特別支援教育をめぐる課題・論点について理解し、説明することができる。	出席，ゼミ形式発表の成果，講義中の議論への参加を総合する。
特別支援教育学演習Ⅰ	是永かな子	知的障害を中心として、視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・病弱等の障害についての研究方法論を習得することを目的とし文献講読の演習を行う。講読文献は、受講者の研究テーマ関連領域の学位論文、雑誌掲載の原著論文・レビュー論文、紀要論文、学会発表要旨集録などから、受講者各人が収集して報告する。報告に基づき研究方法論について議論する。自分の研究テーマ以外の文献を講読することによって、それぞれの興味・関心を広げることも演習の目的とする。	受講者の研究テーマ関連領域の研究方法論について理解し、説明することができる。	出席，ゼミ形式発表の成果，講義中の議論への参加を総合する。
特別支援教育学演習Ⅱ	是永かな子	知的障害を中心として、視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・病弱等の障害についての研究方法論を習得することを目的とし文献講読の演習を行う。講読文献は、基本的に教育学関連領域の学位論文とする。文献は公刊される学位論文を随時提示し、受講者各人が概要と論点をまとめ、報告する。報告に基づき研究方法論について議論する。自分の研究テーマ以外の文献を講読することによって、それぞれの興味・関心を広げることも演習の目的とする。	教育学関連領域の研究方法論について理解し、説明することができる。	出席，ゼミ形式発表の成果，講義中の議論への参加を総合する。
知的障害心理学特論	寺田信一	知的障害を中心として、視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・病弱等の障害について、障害児の心理特性や発達的変化に関する最新の知見を把握すること	心理学研究法の基礎を理解し、知的障害を中心に、障害児心理学研究の現在の到達点を理解する	出席30% レポート30% 授業中の質疑40%
知的障害心理学演習Ⅰ	寺田信一	知的障害を中心として、視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・病弱等の障害について、障害児の心理特性や発達的変化に関する最新の知見を把握すること	知的障害を中心とした障害児心理学の最新の研究論文について、各自がレポートし、授業中の討論で理解を深める	出席30% レポート30% 授業中の質疑40%
知的障害心理学演習Ⅱ	寺田信一	受講生のテーマに基づき、知的障害を中心として、視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・病弱等の障害児の心理特性・発達について事例に即した理解を深めること	受講生のテーマに基づき、知的障害を中心とした障害児心理学の研究論文について、各自がレポートし、授業中の討論で理解を深める	出席30% レポート30% 授業中の質疑40%
知的障害臨床教育学特論	稲富眞彦	現代社会における知的障害（肢体不自由を含む）のある人たちの生存・成長を支える援助的実践、現代社会における知的障害（肢体不自由を含む）のある人たちの人間形成の課題と問題、そうした障害のある人たちの生存・発達を支える発達援助者をめぐる課題と問題について典型的なケースや文献をもとに講義する。	知的障害者本人及び家族・家庭、援助者、学校を含む社会システムについて理解する。	出席、レポート、試験結果を総合的に評定する
知的障害臨床教育学演習Ⅰ	稲富眞彦	就学前の知的障害者（肢体不自由者を含む）のケースについて教育人間学的アプローチを行う。障害の程度別に検討を行う。また二次的障害に焦点を当て障害による制約や集団適応について検討する。	就学前の知的障害者（肢体不自由者を含む）ケースへの教育人間学的アプローチの手法について学ぶ	出席、レポート、試験結果を総合的に評定する
知的障害臨床教育学演習Ⅱ	稲富眞彦	学校段階の知的障害者（肢体不自由者を含む）のケースについて教育人間学的アプローチを行う。障害の程度別、学校段階毎（児童、生徒）に検討を行う。また二次的障害に焦点を当て本人の障害受容や社会適応について検討する。	学校段階の知的障害者（肢体不自由者を含む）ケースへの教育人間学的アプローチの手法について学ぶ	出席、レポート、試験結果を総合的に評定する
病弱病理学演習	未定	病弱教育の対象について病理学的見地から児童・生徒の理解をはかる。この病理学的理解は自立活動領域等において求められる「自己の病気の状態の理解、健康状態の維持・改善等に必要な生活様式の理解、健康状態の維持・改善等に必要な生活習慣の確立、入院等の環境に基づく心理的不適応の改善、諸活動による情緒の安定等」の指導の基礎となる。		
肢体不自由教育演習	鈴木保巳	生理学的・病理学的・心理学的視点から肢体不自由児の諸特性を理解し、これによる指導上の留意点と指導方法についてのより深い専門知識を習得する。		
障害児精神病理学特論	北添紀子	精神疾患または心理的課題を通して臨床精神医学の基礎的知識を学ぶ。	精神疾患や発達障害に関する基礎知識を習得し、知識に基づいて、対応の仕方を工夫できるようになる。	出席態度、レポート、試験の点数を総合する。
障害児精神病理学演習	北添紀子	障害児精神病理特論より引き続いて、課題を通して精神医学の基礎知識を学ぶ。さらに、精神療法の理論、面接の仕方を学ぶ。	精神疾患や発達障害に関する基礎知識を習得し、知識に基づいて、対応の仕方を工夫できるようになる。さらに、学校現場を想定して児童、生徒への心理面接の基礎を理解する。	出席態度、レポートもしくは試験の点数を総合する。
発達障害教育特論	鈴木恵太	障害のある児童生徒の教育は、個のニーズに応じて教育支援を行う特別支援教育として、特別支援学校はもちろん通常学校においても行われることとなった。広範な意味での発達障害教育は、知的障害を有するものを中心とされてきたが、明らかな知的障害を呈しない軽度発達障害への教育も重要な教育テーマとなっている。そこで本講義では、発達障害についての基本的な心理、病理的知識を身につけ、知的障害および軽度発達障害の個に応じた教育について専門的対応ができるよう実際的な解説を行う。	①発達障害に関して、心理的・病理的特性を説明することができる。 ②発達障害の特性に応じた教育的アプローチについて、具体例を挙げて説明することができる。	出席、ゼミ形式の発表の成果、討論への参加を総合的に評価する。
発達障害教育演習Ⅰ	鈴木恵太	知的障害、注意欠陥・多動症候群（ADHD）、高機能自閉症、アスペルガー症候群、学習障害について、その心理と行動について基本的な特性を理解することを目的とする。	発達障害に関する最新の研究論文をレビューし、以下の点について説明できる。 ①研究動向②方法論	出席、ゼミ形式の発表の成果、討論への参加を総合的に評価する。

授業科目名（〇印は開放科目）	担当者	講義概要	達成目標	成績評価基準
発達障害教育演習Ⅱ	鈴木恵太	知的障害、注意欠陥・多動症候群（ADHD）、高機能自閉症、アスペルガー症候群、学習障害について、その心理と行動について特性に基づいて、個に応じた支援計画を立案し、さらに指導効果を評価する方法について発展的知識を修得することを目的とする。	受講生のテーマに基づき、発達障害に関する最新の知見から以下の点を説明できる。①特性に応じた支援方略の研究動向②特性に応じた支援方略の研究方法	出席、ゼミ形式の発表の成果、討論への参加を総合的に評価する。
発達障害教育制度特論	是永かな子	LD、ADHD、情緒障害、言語障害を中心として、視覚障害や聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱といった領域も含め、特殊教育から特別支援教育への転換を教育制度の観点から理解することを目的とする。具体的には、小・中学校や特別支援学校における現在の教育活動について概要を把握し、校内体制や個別支援体制の整備のための条件を受講者で議論する。また教員間・異業種間・学校間の連携のために何が必要かを考察する。本講義を通して、特別支援教育の実施のための制度的条件について共通認識を深めることをめざす。	特殊教育から特別支援教育への転換を教育制度の観点から理解し、説明することができる。	出席，ゼミ形式発表の成果，講義中の議論への参加を総合する。
発達障害臨床教育学特論	稲富眞彦	発達障害（重複を含む）をもつ人たちの生存・成長を支える援助的実践、現代社会における発達障害をもつ人たちの人間形成の課題と問題、そうした障害をもつ人たちの生存・発達を支える発達援助者をめぐる課題と問題について障害類型別に文献や典型的なケースをもとに講義する。また二次的障害に焦点を当て本人の障害受容や社会適応について検討する。	発達障害者本人及び家族・家庭、援助者、学校を含む社会システムについて理解する。	出席、報告、レポートを総合的に評定する。
発達障害教育相談演習	寺田信一	重複障害、LD、ADHD、情緒障害、言語障害を中心として、視覚障害や聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱といった領域も含め、通常学校や特別支援学校における教育相談で必要とされる知識と技能を深める。	現在の障害に関わる発達相談に必要な知識を、事例研究について、各自がレポートし、授業中に討論することで理解する	出席30% レポート30% 授業中の質疑40%
教育実践研究（知的障害）Ⅰ	寺田信一・稲富眞彦・是永かな子	知的障害者等を対象に学校や児童福祉施設等において理論的・基礎的な研究を行なうことを指導する。	理論的・基礎的な研究を行ない一定の成果を示す。	研究デザイン作成，研究の実施，結果の分析を総合する。
教育実践研究（知的障害）Ⅱ	寺田信一・稲富眞彦・是永かな子	知的障害者等を対象に学校や児童福祉現場等において教員としての一層の向上をはかる見地から実証的な研究を行なうことを指導する。	実証的な研究を行ない一定の成果を示す。	研究デザイン作成，研究の実施，結果の分析を総合する。
教育実践研究（発達障害）Ⅰ	寺田信一・稲富眞彦・是永かな子・鈴木恵太	発達障害者等を対象に学校や児童福祉現場等において教員としての一層の向上をはかる見地から理論的・基礎的な研究を行なうことを指導する	理論的・基礎的な研究を行ない一定の成果を示す。	研究デザイン作成，研究の実施，結果の分析を総合する。
教育実践研究（発達障害）Ⅱ	寺田信一・稲富眞彦・是永かな子・鈴木恵太	発達障害者等を対象に学校や児童福祉施設等において実証的な研究を行なうことを指導する。	実証的な研究を行ない一定の成果を示す。	研究デザイン作成，研究の実施，結果の分析を総合する。
長期インターンシップ（知的障害）Ⅰ	寺田信一・稲富眞彦・是永かな子	知的障害等を有する幼児・児童・生徒に対し学校等における専門的な指導実践力量を形成する。	対象とする児童・生徒、学級の実態に即した指導案(計画)が作成できる。	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、研究計画書およびその作成過程に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（知的障害）Ⅱ	寺田信一・稲富眞彦・是永かな子	知的障害等を有する幼児・児童・生徒を対象に学校等において専門的な指導実践力量形成をめざす。	対象とする児童・生徒、学級に対して、指導案(計画)にしたがって、授業あるいは個別指導ができる。	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、指導案、公開研究授業の実施内容や状況、実習報告書に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（知的障害）Ⅲ	寺田信一・稲富眞彦・是永かな子	知的障害者等を対象に学校等において実施した実習をより効果的なものにするため形成的評価（Formative Assessment）の方法について学ぶ。	実施した授業あるいは個別指導を振り返り、指導内容を省察できる。	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、授業研究会または事例研究会の企画・実施状況やそれまでの過程に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（知的障害）Ⅳ	寺田信一・稲富眞彦・是永かな子	知的障害者等を対象に学校等における総括的評価の方法について学び、教員としてより高度な専門的力量形成をめざす。	実態の把握・指導案(計画)・授業(個別指導)記録・省察内容を的確にまとめ、報告できる。	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、事後報告会及び最終報告書やその実施及び作成過程に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（発達障害）Ⅰ	寺田信一・稲富眞彦・是永かな子・鈴木恵太	発達障害等を有する幼児・児童・生徒に対し学校等における専門的な指導実践力量を形成する。	対象とする児童・生徒、学級の実態に即した指導案(計画)が作成できる。	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、研究計画書およびその作成過程に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（発達障害）Ⅱ	寺田信一・稲富眞彦・是永かな子・鈴木恵太	発達障害等を有する幼児・児童・生徒を対象に学校等において専門的な指導実践力量形成をめざす。	対象とする児童・生徒、学級に対して、指導案(計画)にしたがって、授業あるいは個別指導ができる。	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、指導案、公開研究授業の実施内容や状況、実習報告書に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（発達障害）Ⅲ	寺田信一・稲富眞彦・是永かな子・鈴木恵太	発達障害者等を対象に学校等において実施した実習をより効果的なものにするため形成的評価（Formative Assessment）の方法について学ぶ。	実施した授業あるいは個別指導を振り返り、指導内容を省察できる。	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、授業研究会または事例研究会の企画・実施状況やそれまでの過程に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（発達障害）Ⅳ	寺田信一・稲富眞彦・是永かな子・鈴木恵太	発達障害者等を対象に学校等における総括評価の方法について学び、教員としてより高度な専門的力量形成をめざす。	実態の把握・指導案(計画)・授業(個別指導)記録・省察内容を的確にまとめ、報告できる。	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、事後報告会及び最終報告書やその実施及び作成過程に基づいて評価を行う。

授業実践コース

授業科目名（○印は開放科目）	担当者	講義概要	達成目標	成績評価基準
○カリキュラム開発論Ⅰ	島田　希	カリキュラム開発をめぐる基本的な理論および概念について学ぶ。加えて、国内外のカリキュラム研究の動向について、今日的課題に焦点化しつつ考察する。	カリキュラム開発をめぐる研究動向について理解し、その特徴、意義、課題を論じることができる。	出席状況、授業における発表やグループディスカッション、期末レポートにより、総合評価する。
○カリキュラム開発論Ⅱ	島田　希	カリキュラム開発をめぐる今日的課題を取り上げ、事例にもとづいて実践動向を理解し、考察する。	カリキュラム開発をめぐる実践動向について理解し、事例の特徴、意義、課題を分析することができる。	出席状況、授業における発表やグループディスカッション、期末レポートにより、総合評価する。
○教授・学習過程基礎演習（言語）	渡邊春美・北吉郎・那須恒夫・多良静也	授業指導法の基礎として「言語」を取り上げることによって、言語の学習・指導法の可能性と有効性を高める。	言語の本質・機能・言語の発達、言語学習の方法について理解し、自己の言語学習観を持つことができる。	①意欲（出席状況、演習への積極的参加）、②授業で扱う、言語の本質・機能・発達・学習方法に関する先行研究・理論を把握する。③自己の言語学習観をレポートにまとめることができる。評価は、テーマの意義理解・先行研究の把握・論証の確かさ・表記の適切さによる。
○教授・学習過程基礎演習（社会・生活）	藤田詠司・菊地るみ子・小島郷子	子どもの心理と認識発達に関する理論をふまえながら，生活と社会を対象とする教授・学習過程のあり方を考察する。	生活と社会を対象とする教授・学習過程のあり方について，追究意欲喚起，学びの共同体育成，認識の発達促進の観点から論じることができる。	出席状況20%，分担発表20%，討論への参加20%，期末レポート40%で評価し，60点以上を合格とする。
○教授・学習過程基礎演習（自然）	國本景亀・中野俊幸・原田哲夫・道法浩孝	数学、理科、技術の各教科にまたがりながら，授業指導法の基礎を研究する。数学、理科、技術の各教科授業指導法の深さと広がりを探求することをねらいとする。	数学、理科、技術の各教科にまたがりながら，授業指導法の基礎を理解し，数学、理科、技術の各教科授業指導法の深さと広がりを探求することができる。	出席，ゼミ形式発表と英文文献解説の成果，およびレポート点を総合する.
○教授・学習過程基礎演習（身体・表現）	山中　文・金子宜正・刈谷三郎・神家一成	「身体・表現」分野の発達や指導法について学び、教科の枠組みにとらわれない授業指導法上の着眼を得、授業構成の広がりを追及する。	「身体・表現」分野にかかわって、教科横断的な授業構成を考察することができる。	出席、授業内レポート、発表および討議の内容を総合する。
○授業方法演習（国語1）Ⅰ	渡邊春美	国語科教育の基礎論として、今日的課題を取り上げ、理論と実践からその解決を考えていく。	初等・中等国語科教育史および各領域史の達成と課題に関する深い理解。	①意欲（出席状況、演習への積極的参加）、②レポート（テーマの意義理解・先行研究の把握・論証の確かさ・表記の適切さ）による。
○授業方法演習（国語1）Ⅱ	渡邊春美	国語科教育の理論と実践に関する歴史的研究に学ぶとともに、一般国語教育史の特殊具現態としての国語教育個体史について、その概念、その実際と有効性について学び、研究に生かせるようにする。	国語教育個体史の概念と有効性の理解を深める、実践者の実践を個体史の観点から考察し、その意義、特色、および課題に関して理解を深める。	①意欲（出席状況、演習への積極的参加）、②国語教育（理論・実践）史、国語教育個体史研究の意義と方法の理解。③レポート（テーマの意義理解・先行研究の把握・論証の確かさ・表記の適切さ）による。
○授業方法演習（国語1）Ⅲ	渡邊春美	国語科授業の豊かな創造を求め、実践（論文）に学びつつ、理論化を図る。	課題の明確化。実践の考察をとおして、豊かな授業創造のための理論化を行い、それを生かせるようにできる。	①意欲（出席状況、演習への積極的参加）、②国語科教育の今日課題、国語教育の理論と実践の歴史、国語教育個体史に学びつつ、自ら方法論の確立を図る。③レポート（テーマの意義理解・先行研究の把握・論証の確かさ・表記の適切さ）による。
○授業方法演習（国語2）Ⅰ	北　吉　郎	国語科教育における授業展開力の育成を図る。	①自己の研究課題を明確にする。 ②自己の研究課題を深めていく上で、これまでの国語教育研究の理論および実践の成果を知る。	①自己の研究課題を明確にできたか。 ②自己の研究課題を深めていく上で、これまでの国語教育研究の理論および実践の成果に学ぶことができたか。
○授業方法演習（国語2）Ⅱ	北　吉　郎	国語科教育における授業展開力の育成を図る。	①これまでの国語教育研究理論および実践の成果についての研究を深め、考察する。 ②自己の研究課題の論理構築を図るために、文献の分類、取捨、具体的な取り込みに関する考察や作業化を進める。 ③必要に応じて、実践的検証を図るために、実際に授業を行ったり、また授業に関するデータの蓄積を進める。	①これまでの国語教育研究理論および実践の成果について研究を深め、考察できたか。。 ②自己の研究課題の論理構築を図るために、文献の分類、取捨、具体的な取り込みに関する考察や作業化を進めることができたか。 ③必要に応じて、実践的検証を図るために、実際に授業を行ったり、また授業に関するデータの蓄積を進めることができたか。
○授業方法演習（国語2）Ⅲ	北　吉　郎	国語科教育における授業展開力の育成を図る。	①自己の研究課題の論理構築のために、文献の取捨、具体的な取り込みの作業を進める。 ②実践的検証の必要から、実際に行った実践的授業や授業に関するデータの考察、論理構築を行う。 ③これまでの自己の研究テーマに基づく研究成果を、を、修士論文としてまとめる。	①自己の研究課題の理論構築のために、これまでの国語教育理論および実践の歴史的成果に学び、自らの研究成果を、修士論文としてまとめることができたか。
○授業方法演習（社会・地理歴史）Ⅰ	藤田　詠司	地理授業・歴史授業の方法に関する現代社会認識教育研究の成果を習得する。	現代社会認識教育研究の成果にもとづきながら，地理授業・歴史授業の適切な方法を論じることができる。	出席状況20%，分担発表20%，討論への参加20%，期末レポート40%で評価し，60点以上を合格とする。

授業科目名（○印は開放科目）	担当者	講義概要	達成目標	成績評価基準
○授業方法演習（社会・地理歴史）Ⅱ	藤田　詠司	優れた地理・歴史授業を批判的に分析し，自身の研究課題を明確にする。	優れた授業実践の分析にもとづき，地理授業・歴史授業の適切な方法に関する自身の研究課題を明確にすることができる。	出席状況20%，分担発表20%，討論への参加20%，期末レポート40%で評価し，60点以上を合格とする。
○授業方法演習（社会・地理歴史）Ⅲ	藤田　詠司	地理・歴史授業の理論と実践を批判的に検討し，自身の研究課題を追究する。	地理・歴史授業の理論と実践の検討にもとづき，自身の研究課題追究の見通しをたてることができる。	出席状況20%，分担発表20%，討論への参加20%，期末レポート40%で評価し，60点以上を合格とする。
○授業方法演習（社会・公民）Ⅰ	藤田　詠司	公民授業の方法に関する現代社会認識教育研究の成果を習得する。	現代社会認識教育研究の成果にもとづきながら，公民授業の適切な方法を論じることができる。	出席状況20%，分担発表20%，討論への参加20%，期末レポート40%で評価し，60点以上を合格とする。
○授業方法演習（社会・公民）Ⅱ	藤田　詠司	優れた公民授業を批判的に分析し，自身の研究課題を明確にする。	優れた授業実践の分析にもとづき，地理授業・歴史授業の適切な方法に関する自身の研究課題を明確にすることができる。	出席状況20%，分担発表20%，討論への参加20%，期末レポート40%で評価し，60点以上を合格とする。
○授業方法演習（社会・公民）Ⅲ	藤田　詠司	公民授業の理論と実践の検討にもとづき，自身の研究課題追究の見通しをたてることができる。	公民授業の理論と実践の検討にもとづき，自身の研究課題追究の見通しをたてることができる。	出席状況20%，分担発表20%，討論への参加20%，期末レポート40%で評価し，60点以上を合格とする。
○授業方法演習（数学1）Ⅰ	國本景亀	数学教育の本質論、原理論を論究する。数学教育における認識論や学習理論から数学教育に適した教授原理を導出する。	ピアジェ、ビットマンなどの理論を考究し、そこから教授原理を導出する	出席、英文翻訳、ゼミでの発表、レポートなどを総合する
○授業方法演習（数学1）Ⅱ	國本景亀	数学教育実践論をより詳細に構築し、そこから得られる教授原理を導出する。	授業方法演習Iの考察を基に、実践論としての教授原理を導出する	出席、英文翻訳、ゼミでの発表、レポートなどを総合する
○授業方法演習（数学1）Ⅲ	國本景亀	数学教育実践論を展開する。本質的学習場を設計し、教材開発や指導法の改善を行い、それらの適切性や妥当性を授業実践を通して検証する。	授業方法演習I、IIの考察を基に、本質的学習場を設計し、その妥当性などを検討する	出席、教材開発、授業構想等で総合的にする
○授業方法演習（数学2）Ⅰ	中野俊幸	算数・数学の授業展開力の育成	数学教育学の基礎的理論をある程度理解し，数学教育の諸問題を考察することが出来る。	出席，ゼミ形式発表と英文文献解説の成果，およびレポート点を総合する.
○授業方法演習（数学2）Ⅱ	中野俊幸	算数・数学の授業展開力の育成	数学教育学の基礎的理論をかなり理解し，算数・数学の学習指導の在り方について考察することが出来る。	出席，ゼミ形式発表と英文文献解説の成果，およびレポート点を総合する.
○授業方法演習（数学2）Ⅲ	中野俊幸	算数・数学の授業展開力の育成	数学教育学の基礎的理論を十分に理解し，よりよい算数・数学授業を設計することが出来る。	出席，ゼミ形式発表と英文文献解説の成果，およびレポート点を総合する.
○授業方法演習（理科1）Ⅰ	中城　滿	現代理科教育に求められている授業方法スキルを文献調査から理解する.	講義内容を十分理解した上で、実践的指導案を立案、作成できる。	出席，ゼミ形式発表と文献解説の成果，およびレポート点を総合する.
○授業方法演習（理科1）Ⅱ	中城　滿	理科教育の授業方法スキルを実践的に理解する.	講義内容を十分理解した上で、実践的指導案を作成、検証し、実践的指導力を身につけることができる。	出席，ゼミ形式発表と文献解説の成果，およびレポート点を総合する.
○授業方法演習（理科1）Ⅲ	中城　滿	日本の理科教育に関連する現代的課題，あるいは，諸外国における理科教育の関連する課題を取り上げ，調査・発表する.	講義内容を十分理解した上で、新しい理科実践の手法、理論を作り出すことができる。	出席，ゼミ形式発表と文献解説の成果，およびレポート点を総合する.
○授業方法演習（理科2）Ⅰ				
○授業方法演習（理科2）Ⅱ				
○授業方法演習（理科2）Ⅲ				
○授業方法演習（英語1）Ⅰ	那須　恒夫	英語教育の授業研究についての今日的な課題を分析し，自身の研究課題を明確にする。	英語科授業研究の基礎となる専門的知識を身につけることができる。	出席（25%）、発表態度（25%）、レポートの提出（50%）などを総合して評価を行う。

授業科目名（〇印は開放科目）	担当者	講義概要	達成目標	成績評価基準
〇授業方法演習（英語1）Ⅱ	那須　恒夫	授業研究の課題を絞ると同時に，先行研究の収集と考察を行う。	英語科授業における協同学習（ペアーやグループ活動）のあり方を理解するようになる。	出席（25%）、発表態度（25%）、レポートの提出（25%）などを総合して評価を行う。
〇授業方法演習（英語1）Ⅲ	那須　恒夫	個々の研究課題に焦点をあて，授業研究の問題解決に向けて検討・考察する。	四技能の授業研究の基礎となる専門知識を身につけることができる。	出席（25%）、発表態度（25%）、レポートの提出（50%）などを総合して評価を行う。
〇授業方法演習（英語2）Ⅰ	多良静也	英語教育、特に学習者理論に関する最新の概論書を講読しながら、新しい理論を学習する。	英語学習者の諸側面について最近の研究の動向を理解し、英語授業の設計・運営と絡めて考察ができる。	授業時のプレゼンテーション、学期末筆記テスト、出席を総合的に評価する。
〇授業方法演習（英語2）Ⅱ	多良静也	英語発音指導の理論と実践について学習をする。正しく発音できるようになることはもちろん、どのように発音を指導すべきかを検討していく。	なぜ今「音声」なのかを理解し、授業に音声をどのように取り入れていくのかを具体的に考察することができる。	授業時のプレゼンテーション、学期末筆記テスト、出席を総合的に評価する。
〇授業方法演習（英語2）Ⅲ	多良静也	英語教授法を学びながら、英語授業の方法について具体的に学んでいく。	様々な教授法の多角的に分析批判し、日本の英語教育に必要な要素を取捨選択し、英語授業の設計・運営と絡めて考察することができる。	授業時のプレゼンテーション、学期末筆記テスト、出席を総合的に評価する。
授業方法演習（音楽）Ⅰ	山中　文	近年の学習論等を踏まえ、音楽科におけるさまざまな授業研究を知り、院生個々の授業研究の課題の知見を得る。	近年の学習論を基軸とした音楽科の授業構成を理解し、音楽科の授業研究の課題を考察することができる。	出席、授業内レポート、発表および討議の内容を総合する。
授業方法演習（音楽）Ⅱ	山中　文	音楽科のさまざまな授業における現代的課題を分析し、課題に対応した教育実践研究を行う。	課題の分析から、音楽科の指導過程を踏まえた授業を構想することができる。	出席、授業内レポート、発表および討議の内容を総合する。
授業方法演習（音楽）Ⅲ	山中　文	院生個々の研究課題に対応する音楽の授業研究論文・文献研究を行い、課題に対応した授業研究を行う。	個々の課題に対応した授業を構成することができる。	出席、授業内レポート、発表および討議の内容を総合する。
授業方法演習（美術）Ⅰ	金子宜正	学習指導要領等をふまえて図画工作・美術教育についての理解を深め、著名な教育者やその活動をもとに美術教育における基本理念について考察するとともに、教材および指導法について演習を行なう。	図画工作・美術教育における基本となる考え方を把握し、教育実践についての事例を比較検討するとともに、実践研究や指導案等を通じて、授業内容や授業方法について考察することができる。	出席状況、研究成果、レポートの内容等を総合的に評価する。
授業方法演習（美術）Ⅱ	金子宜正	授業方法演習Ⅰの内容をふまえ、受講生の研究課題を明確にし、その研究課題に対応した文献や資料等を用いて研究を進める。	研究を進めるために必要な調査研究の方法を理解し、研究課題に対応した授業内容や授業方法について考察するとともに、それを纏めるための論理的な思考力や文章力の基礎を身につける。	出席状況、研究成果、レポートの内容等を総合的に評価する。
授業方法演習（美術）Ⅲ	金子宜正	授業方法演習Ⅱの内容を発展させ、各自の研究課題に対応した授業内容や授業方法についての探究を更に深める。	研究課題に応じた調査研究を更に進め、研究課題に対応した授業内容や授業方法についての考察を一層深めるとともに、それを論理的な文章に纏めることができる。	出席状況、研究成果、レポートの内容等を総合的に評価する。
授業方法演習（保健体育1）Ⅰ	刈谷三郎	小学校・中学校・高等学校における保健体育科教育に関する今日的な課題を分析するとともに、その課題に対応した授業を構成する基礎能力を養う。基礎的文献の講読を通して、保健体育科教育の本質や目的、歴史および基礎的理論に関する理解を深めるとともに、各学校段階における今日的な課題を分析する。	保健体育教育に関する今日的課題を文献により理解し考察できる。	文献講読レポート及び最終小論文の作成による。
授業方法演習（保健体育1）Ⅱ	刈谷三郎	小学校・中学校・高等学校における保健体育科教育に関する今日的な課題を分析するとともに、その課題に対応した授業を構成する発展的な能力を養う。授業方法演習Ⅰで学習した、各学校段階における保健体育科教育に関する今日的課題解決のための、授業構成能力（授業内容や授業方法・授業評価等）について学習する。	保健体育科教育に関する実証的課題解決に向けて、その具体的方法論を身につける。	方法論に関するレポート及び最終小論文の作成による。
授業方法演習（保健体育1）Ⅲ	刈谷三郎	小学校・中学校・高等学校における保健体育科教育に関する授業分析および授業研究の手法を習得する。授業方法演習Ⅱで学習した授業研究の手法を用いて、各学校段階における保健体育科授業について、授業分析や授業評価等、モデル授業を使った授業研究を行なう。	保健体育科教育に関する授業分析を行い新しいモデル授業が構築できる。	授業モデルに関するレポート及び最終小論文の作成による。
授業方法演習（保健体育2）Ⅰ	神家　一成	保健体育科の授業の方法に関する体育科教育学研究の成果を習得する。	保健体育科の授業方法に関する基本的な論述を理解することができる。	出席、授業内レポート、発表および討議の内容を総合的に評価する。
授業方法演習（保健体育2）Ⅱ	神家　一成	保健体育科の授業の方法に関する体育科教育学研究の成果を習得する。	保健体育科の授業方法に関する論述を理解することができる。	出席、授業内レポート、発表および討議の内容を総合的に評価する。
授業方法演習（保健体育2）Ⅲ	神家　一成	現代の保健体育科授業のトピックや優れた授業実践事例を分析し，自身の研究課題を明らかにする。	保健体育科の授業方法に関する論述を考察することができる。	出席、授業内レポート、発表および討議の内容を総合的に評価する。

授業科目名（○印は開放科目）	担当者	講義概要	達成目標	成績評価基準
授業方法演習（技術1）Ⅰ	増尾慶裕	技術科教育における学習目標分析の方法を習得する。	技術科教育における学習目標分析の方法を知る。	出席、レポート、テストを総合的に評価する.
授業方法演習（技術1）Ⅱ	増尾慶裕	技術科教育における学習評価の方法を習得する。	技術科教育における学習評価の方法を知る。	出席、レポート、テストを総合的に評価する.
授業方法演習（技術1）Ⅲ	増尾慶裕	技術科教育における構成主義、状況主義等の学習指導方法の構築をする。	技術科教育における構成主義、状況主義等の学習指導方法を知る。	出席、レポート、テストを総合的に評価する.
授業方法演習（技術2）Ⅰ	道法　浩孝	技術科教育の目標，内容についての考察および今日的課題の分析を通して，技術科教育研究の基礎的理論を習得する.	わが国における技術科教育の現状と課題を理解するとともに，課題に対する方策を考え論述することができる.	授業態度，レポート，発表・討議を総合して評価する.
授業方法演習（技術2）Ⅱ	道法　浩孝	技術科教育における教材および学習指導について考察し，教材開発および授業設計に関する理論と技術を習得する.	技術科教育における教材開発および授業設計に関する理論を身につけるとともに実際に教材開発，授業設計を行うことができる.	授業態度，レポート，発表・討議を総合して評価する.
授業方法演習（技術2）Ⅲ	道法　浩孝	教材開発および授業設計に関する院生各自の研究テーマに基づき，関連する文献の購読等の演習を行う.	院生各自が設定した研究課題に基づき，自主的・意欲的にその探究活動を行うとともにその成果を論述することができる.	授業態度，レポート，課題に取り組む姿勢を総合して評価する.
授業方法演習（家庭1）Ⅰ	菊地るみ子	小学校・中学校・高等学校における家庭科教育および家政教育に関する今日的な課題を分析するとともに、その課題の解決をめざした教育実践に向けた基礎的能力の育成をめざす。	家庭科教育および家政教育に関する課題を分析し、課題解決をめざした教育実践のあり方を客観的立場から考察することができる。	出席、ゼミ形式発表と文献解説の成果、およびレポート点を総合する。
授業方法演習（家庭1）Ⅱ	菊地るみ子	小学校・中学校・高等学校における家庭科教育、家政教育に関する現代的な課題を分析するとともに、その課題に対応した教育実践への発展的な能力を育成する。	家庭科教育および家政教育に関する課題を分析し、課題解決をめざした教育実践の具体像を考察することができる。	出席、ゼミ形式発表と文献解説の成果、およびレポート点を総合する。
授業方法演習（家庭1）Ⅲ	菊地るみ子	小学校・中学校・高等学校における家庭科教育、家政教育に関して、教育実践分析および教育実践研究の手法を習得する。	家庭科教育および家政教育に関して、教育実践の分析と研究の手法を習得することができる、。	出席、ゼミ形式発表と文献解説の成果、およびレポート点を総合する。
授業方法演習（家庭2）Ⅰ	小島郷子	小学校・中学校・高等学校における家庭科教育に関する今日的な課題を分析するとともに、その課題に対応した授業を構成する基礎能力を養う	授業を構成するために必要な授業内容・方法や評価方法等について理解する。	出席，ゼミ形式発表と文献解説の成果，およびレポート点を総合する.
授業方法演習（家庭2）Ⅱ	小島郷子	小学校・中学校・高等学校における家庭科教育に関する今日的な課題を分析するとともに、その課題に対応した授業を構成する発展的な能力を養う	家庭科教育の今日的課題を理解した上で、授業を構成することができる。	出席，ゼミ形式発表と文献解説の成果，およびレポート点を総合する.
授業方法演習（家庭2）Ⅲ	小島郷子	小学校・中学校・高等学校における家庭科教育に関する授業分析および授業研究の手法を習得する	家庭科授業について授業研究手法を理解し、授業分析ができる。	出席，ゼミ形式発表と文献解説の成果，およびレポート点を総合する.
教材開発演習（国語）Ⅰ	北　吉郎	国語科教材開発力の育成を図る。	①国語科教科書に登載されることの多い児童文学作家の作品を幅広く読む。 ②幅広く読んだ児童文学作家の作品を、教材化の視点から選び出して、考察する。 ③選び出された作品について、具体的な教材化を図る。	①国語科教科書に登載されることの多い児童文学作家の作品を広く読むことができたか。 ②広く読んだ児童文学作家の作品を、教材化の視点から選び出して、考察できたか。 ③選び出された作品について、具体的な教材化を図ることができたか。
教材開発演習（国語）Ⅱ	渡邊春美	基礎的な知識を応用し、中学校・高等学校の国語教材分析、教材開発を行いながら教材把握・開発力を高める。	教材論・教材編成論に関する理解を深めるとともに、それを教材研究、教材開発に生かすことができるようにする。	①意欲（出席状況、演習への積極的参加）、②レポート（教材論・教材開発論に基づく教材分析、教材開発）による。
教材開発演習（社会・地理歴史）Ⅰ	遠藤隆俊	小中学校の地理歴史教育と教材開発：日本および東アジアの小中学校の社会科教科書（地理・歴史）を、専門的な立場から検討する。それにより歴史教育や歴史認識の違いを考えるとともに、日本の近代を再検討する。	歴史教科書から該当部分を抜き出す。それを自分なりに分析する。	出席と発表状況
教材開発演習（社会・地理歴史）Ⅱ	遠藤隆俊	小中学校における郷土資料の収集と教材開発：高知県内の図書館や資料館に所蔵される書籍や文書、地図を検討し、小中学校の地理、歴史に必要な郷土の教材を開発する。	調査に出かけ、所蔵状況を確認する。	出席状況
教材開発演習（社会・公民）Ⅰ	藤田　詠司	公民授業に有効な教材を開発する。	公民授業に有効な教材を開発することができる。	出席状況20%，分担発表20%，討論への参加20%，期末レポート40%で評価し，60点以上を合格とする。

授業科目名（○印は開放科目）	担当者	講義概要	達成目標	成績評価基準
教材開発演習（社会・公民）Ⅱ	藤田　詠司	開発した公民授業に有効な教材を改良し，その教材の意義と課題を説明する。	開発した公民教材を改良し，その教材の意義と課題を説明することができる。	出席状況20%，分担発表20%，討論への参加20%，期末レポート40%で評価し，60点以上を合格とする。
教材開発演習（数学）Ⅰ	國本景亀	授業方法演習で導出された生命論に基づく教育原理をもとに、教科書やその他の数学及び数学教育の書物を参考文献として、新しい教材を開発する	授業方法演習で導出された教授原理に基づき教科書を分析し、新しい教材を開発する。	出席、教科書の分析、教材開発などにより評価する
教材開発演習（数学）Ⅱ	中野俊幸	教材開発演習Ⅰに基づき、新しい教材の適切性や妥当性を検証する。	新しい教材について、その妥当性や適切性を検討する	開発した教材を、実際の授業で試み、その妥当性や適切性を検討する。
教材開発演習（理科）Ⅰ	原田哲夫・蒲生啓司	自然科学の成果のうち明確で意義深いものを教材化する。	自然科学の成果を正確に把握し、それをわかりやすい教材に加工できる。	開発した教材が教育現場で使用可能かどうかを基準とする。
教材開発演習（理科）Ⅱ	原田哲夫・蒲生啓司	地域の自然環境を活用した理科教育の教材を開発する.	理科教育の資源となりうる自然環境を調査し、その調査に基づいて、指導計画を報告書として構成する.	出席状況、野外調査への参加および報告書を総合的に評価する.
教材開発演習（英語）Ⅰ	那須　恒夫・多良　静也	英語授業で使う英語教材開発の理論と実践について学ぶ。	英語科教材開発の基礎となる専門的知識を身につけるようになる。	出席（25%）、発表態度（25%）、レポートの提出（50%）などを総合して評価を行う。
教材開発演習（英語）Ⅱ	谷口雅基	基礎的、学問的な知識を応用し、教材開発を試みると同時に、教材開発の試みを通して基礎知識の深化を図る。学習者が、英語の語彙、音声、文法を無理なく学習できる教材を開発するために、他の教科内容をも取り入れ、学際的発想を培う。音楽、体育、美術、国語、社会、理科、算数等あらゆるものが教材になりうることを認識し、実際に開発を試みる。	将来自力で教材を開発できる能力を養う。	課題レポート30%、口頭発表50%、出席20%
教材開発演習（音楽）Ⅰ	山中　文	基礎的・学問的な知識を応用して音楽科の教材開発力を育成する。	教育内容と教材の関係から、音楽科の教材を開発することができる。	出席、授業内レポート、発表および討議の内容を総合する。
教材開発演習（音楽）Ⅱ	山中　文	Ⅰで開発した教材について、音楽科のカリキュラムを見通してその位置づけを確認し、バリエイションを含めて発展させる。	Ⅰで開発した教材の指導過程の中での位置づけを考察することができる。	出席、授業内レポート、発表および討議の内容を総合する。
教材開発演習（美術）Ⅰ	金子宜正	図画工作・美術教育に関する基礎的な知識や考え方をふまえ、材料や技法、著名な作品等がもつ特性を活かし、表現と鑑賞にかかわる教材開発を行なう。	教育上のポイントを十分に理解し、教材開発における基礎的な能力を身につける。	出席状況、授業での研究成果、レポートの内容等を総合的に評価する。
教材開発演習（美術）Ⅱ	金子宜正	教材開発演習(美術)Ⅰの内容をふまえ、教育的効果の高い教材を開発する。	教育上のポイントが明確で、児童生徒が主体的に取り組める教材を開発し、教材開発における応用力を身につける。	出席状況、授業での研究成果、レポートの内容等を総合的に評価する。
教材開発演習（保健体育）Ⅰ	刈谷三郎	小・中・高等学校の保健体育科教育に関する基礎的・学問的な知識を応用し教材開発につなげることを目的とする。保健体育科教育に関わる研究テーマを設定して、基礎的・学問的知識の習得を行う。そこでの知見をもとに、小・中・高等学校の保健体育科教育に関わる教材開発を行う。	保健体育科教育に関する教材開発を実証的に行うことができる。	教材開発に関するレポート及び最終小論文の作成による。
教材開発演習（保健体育）Ⅱ	神家　一成	教材開発の試みを通して基礎的・学問的に知識の深化を図る。	習得した教材開発の知識を基に、ねらいに応じた教材を構想することができる。	出席、授業内レポート、発表および討議の内容を総合的に評価する。
教材開発演習（技術）Ⅰ	道法　浩孝	教材開発における基礎的理論の習得・深化を図るとともに，それを基盤として技術科教育における具体的な教材の開発を行う.	教材開発に関する基礎的理論を身につけるとともに，それを基盤にして教材を開発することができる.	授業態度，レポート，発表・討議を総合して評価する.
教材開発演習（技術）Ⅱ	道法　浩孝	教材開発演習Ⅰで開発した教材の評価およびそれを基盤とした新たな教材の開発を通して，教材開発能力の深化・向上を図る.	学習内容および学習過程の分析に基づいて教材開発を行うとともに，開発した教材を適切に評価し工夫・改善することができる.	授業態度，レポート，発表・討議を総合して評価する.
教材開発演習（家庭）Ⅰ	菊地るみ子・小島郷子	小・中・高等学校の家庭科、家政教育に関する基礎的・学問的な知識を応用し教材開発につなげることを目的とする。	小・中・高等学校の家庭科、家政教育に関する基礎的・学問的な知識を理解し、それを応用した教材開発につなげることができる。	出席、ゼミ形式発表と文献解説の成果，およびレポート点を総合する.
教材開発演習（家庭）Ⅱ	菊地るみ子・小島郷子	教材開発演習Ⅰでの成果をふまえ、開発した教材の進化をはかりつつ、バリエイションを試みることを目的とする。	教材開発演習Ⅰでの成果をふまえ、開発した教材の進化をはかりつつ、バリエイションを試みることができる。	出席、ゼミ形式発表と文献解説の成果，およびレポート点を総合する.
教材開発演習（異文化理解）Ⅰ	谷口雅基	異文化コミュニケーションの立場より、諸文化の類似点、相違点を考え、言語コミュニケーションおよび非言語コミュニケーションの具体例を通して、国際コミュニケーションにおける異文化理解の重要性の認識を高める。	異文化理解を通して、世界平和と人類愛の重要性を認識した、国際的に通用する人材を育成する。	課題レポート50%、口頭発表30%、出席20%

授業科目名（○印は開放科目）	担当者	講義概要	達成目標	成績評価基準
教材開発演習（異文化理解）Ⅱ	谷口雅基	グローバル化する世界において不可欠である異文化理解を、異文化コミュニケーションの観点より学ぶ。教材開発演習（異文化理解）Ⅰより高度な内容を行なう。	異文化理解を通して、世界平和と人類愛の重要性を認識した、国際的に通用する人材を育成する。	課題レポート50%、口頭発表30%、出席20%
教材開発演習（地域伝統文化）Ⅰ	高橋美樹	地域の伝統文化を素材とした教材開発を実践する。主に、地域社会や諸民族が伝承している音楽文化、民俗芸能などに焦点を当てる。	1. 地域の伝統文化を対象とした教材開発の計画を立てることができる。 2. 計画書をもとに、題材設定や題材目標、学習指導案を作成することができる。	計画書と学習指導案を最重視（70%）し、授業中の討論への参加の度合い（10%）と出席（20%）を加味して、総合的に判断する。
教材開発演習（地域伝統文化）Ⅱ	高橋美樹	教材開発演習（地域伝統文化Ⅰ）で開発した教材を取り入れた研究授業の実施によって、その成果と課題を追究する。	1. 教材開発の計画書や学習指導案をもとに、授業を行うことができる。 2. 授業実践後に、教材開発の有効性と改善点を見出すことができる。	研究授業を最重視（50%）し、授業後のレポート（30%）と出席（20%）を加味して、総合的に判断する。
教材開発演習（環境教育）Ⅰ	増尾慶裕	環境教育における教材開発とその手法を習得する。	環境教育における教材開発とその手法を知る。	出席、レポート、テストを総合的に評価する.
教材開発演習（環境教育）Ⅱ	増尾慶裕	コンピュータ等を用いて環境教育に関する教材開発を行う。	コンピュータ等を用いて環境教育に関する教材開発ができる。	出席、レポート、テストを総合的に評価する.
教科内容基礎論（国語学）Ⅰ	久野　眞	日本語の音声・音韻に関する基礎的な知識を身につける。	標準的な日本語の音声と音韻体系を知り、各地方言音声の特色も分かるようにする。	IPA（国際音声記号）で日本語の音声が記述できるかを試験する。
教科内容基礎論（国語学）Ⅱ	久野　眞	日本語の文法に関する基礎的な知識を身につける。	学校文法以外にもさまざまな方言論があることを知り、自分で文法について考える力を養う。	さまざまな文法上の課題からテーマを選んで、どの程度議論できるかによって評価する。
教科内容基礎論（国語学）Ⅲ	久野　眞	日本語の語彙と意味に関する基礎的な知識を身につける。	語彙論の基本を知り、意味分析の方法を身につける。	語彙資料をどの程度収集し、どこまで分析できるかによって評価する。
教科内容基礎論（国文学）Ⅰ	武久康高	中古・中世の物語を読解するため必要な基礎的知識を身につける	当時の状況を踏まえながら物語の内容を理解するとともに、そこから自分なりの問題を引き出すことができる。	出席と発表状況
教科内容基礎論（国文学）Ⅱ	武久康高	和歌の読解に必要な基礎的知識を身につける	歌ことばの役割に注意しながら、和歌を読み取ることができる。	出席と発表状況
教科内容基礎論（国文学）Ⅲ	武久康高	中古・中世の散文を読解する力を身につける	時代状況とのかかわりから作品の内容を理解するとともに、そこから自分なりの問題を引き出すことができる。	出席と発表状況
教科内容基礎論（漢文学）Ⅰ	玉木尚之	テーマ：漢字・漢語・漢文の基礎 目的：漢文教授のための基礎知識について学問的方法をふまえ再確認する	漢文学教授のための基礎知識について、学問的方法をふまえ再確認することができる。	漢文学教授のための基礎知識について、学問的方法をふまえ再確認することができたかどうかを、毎時の成果によって評価する。
教科内容基礎論（漢文学）Ⅱ	玉木尚之	テーマ：漢文古典読解 目的：再確認した基礎知識ももとにして、漢文読解力を強化する	漢文教授に最低限必要な漢文読解力を身につけることができる。	漢文教授に最低限必要な漢文読解力を身につけることができたかを、毎時の成果によって評価する。
教科内容基礎論（漢文学）Ⅲ	玉木尚之	テーマ：漢文の問題点の検討 目的：漢文に関する問題を発見し、学問的に検討する	漢文に関する問題を発見し、学問的に検討できる。	漢文に関する問題を発見し、学問的に検討できたかを、毎時の成果によって評価する。
教科内容基礎論（書道）Ⅰ	北川修久	楷書に至るまでの書体の変化と、表現の基礎を考える。	各書体の歴史、それぞれの書風について考え、解説ができる	提出物、出席、書体の理解度を総合して評価
教科内容基礎論（書道）Ⅱ	北川修久	古典臨書はどうあるべきか。臨書を通じて書法を考える。	各書体によって変化する用筆法のそれぞれを考え、表現ができる	提出物、出席、臨書表現の成果を総合して評価
教科内容基礎論（書道）Ⅲ	北川修久	書の美の造形と、書の創作を考える。	書の現代性について考え、創作ができる	提出物、出席、作品の造形力を総合して評価

授業科目名（○印は開放科目）	担当者	講義概要	達成目標	成績評価基準
教科内容基礎論（日本史）Ⅰ	市村高男	テーマは「前近代の日本社会」、学校教育における教育内容の重要性を考える。	新たな日本前近代史研究の概容を理解している。	出席、発表、レポートの内容の評価を総合する。
教科内容基礎論（日本史）Ⅱ	市村高男	テーマは「前近代の資料論」、日本史を考える上で基礎となる多様な史料を検討する。	多様な史料の存在を認識し、その活用法を理解している。	出席、発表、レポートの内容の評価を総合する。
教科内容基礎論（日本史）Ⅲ	市村高男	テーマは「アジアの中の列島社会」、グローバルな日本史論を学ぶ。	「国家」の枠組みを外した研究の有効性を理解している。	出席、発表、レポートの内容の評価を総合する。
教科内容基礎論（東洋史）Ⅰ	遠藤隆俊	東アジア史特論：中国を中心とした東アジア史を通史的に考察し、これを西アジアや南アジア、中央アジア、北アジアの歴史について、ユーラシア史の視点から検討する。	東アジアの歴史について、研究論文レベルの内容を理解する。	出席とレポート
教科内容基礎論（東洋史）Ⅱ	遠藤隆俊	東アジア史演習：中国を中心とした東アジア史に関する研究論文の講読をする。それによって、外国史の知識を獲得するとともに、プレゼンテーション能力を養う。	論文の読解力と発表能力	出席と発表状況
教科内容基礎論（東洋史）Ⅲ	遠藤隆俊	東アジア史料講読：中国を中心とした東アジア史に関する原典史料の読解を行う。それによって、外国史の知識を根底から再検討し、史料や図表の読める教師を養う。	資料の読解力	出席と読解状況
教科内容基礎論（西洋史）Ⅰ	柳川平太郎	比較都市史研究方法論序説 ――ウェーバー社会学による都市史分析法――	ウェーバー社会学による都市史分析の方法を理解し、各国中世都市の基本的特質から類型構成を行える。	ウーェバー都市の類型学に関するレポートと報告により、評価をする。
教科内容基礎論（西洋史）Ⅱ	柳川平太郎	西欧中世都市研究序説 ――ドイツ中世都市史研究――	ドイツの代表的な中世都市に関する原書講読が出来るようにし、基本的史料を読めるようにする。	原書講読の演習における基本的翻訳の能力と出席点を半々に評価する。
教科内容基礎論（西洋史）Ⅲ	柳川平太郎	西欧近世都市研究序説 ――ドイツ近世都市史研究――	ドイツの代表的な近世都市に関する原書講読が出来るようにし、基本的史料を読めるようにする。	書講読の演習における基本的翻訳の能力と出席点を半々に評価する。
教科内容基礎論（地理学1）Ⅰ				
教科内容基礎論（地理学1）Ⅱ				
教科内容基礎論（地理学1）Ⅲ				
教科内容基礎論（地理学2）Ⅰ	藤塚吉浩	都市地理学研究の近年の動向について購読を行う。なかでも、都市化の動向と関連づけながら、都市内部の機能分化について理解させる。	都市化と都市内部の機能分化について理解する。	平常点（20%），発表状況（80%）
教科内容基礎論（地理学2）Ⅱ	藤塚吉浩	都市地理学、特に先進資本主義国の都市問題に関する文献購読を行い、都市地理学研究の考え方、方法を履修させる。	先進資本主義国の都市問題に関しての考え方を身につける。	平常点（20%），発表状況（80%）
教科内容基礎論（地理学2）Ⅲ	藤塚吉浩	世界各地でみられる近年の都市再生についての研究動向を購読し、理解を深める。	近年の都市再生の動向について理解を深める。	平常点（20%），発表状況（80%）
教科内容基礎論（法律学）Ⅰ	藤本富一	人権総論	学生が人権の種類・体系、人権の享有主体、人権の限界など人権の基礎的事項を理解する。	授業における質疑応答とは別に数回のレポートを提出してもらう。成績評価は受講状況（50%）とレポート（50%）を総合して評価する。
教科内容基礎論（法律学）Ⅱ	藤本富一	外国人の人権	学生が外国人の人権享有主体性、個別の人権の保障程度など、外国人の人権に関わる主要な論点を理解する。	授業における質疑応答とは別に数回のレポートを提出してもらう。成績評価は受講状況（50%）とレポート（50%）を総合して評価する。
教科内容基礎論（法律学）Ⅲ	藤本富一	人権の国際的保障	人権保障をより強固なものとするための国際的枠組みについて学生が理解する。	授業における質疑応答とは別に数回のレポートを提出してもらう。成績評価は受講状況（50%）とレポート（50%）を総合して評価する。
教科内容基礎論（政治学）Ⅰ				

授業科目名（○印は開放科目）	担当者	講義概要	達成目標	成績評価基準
教科内容基礎論（政治学）Ⅱ				
教科内容基礎論（政治学）Ⅲ				
教科内容基礎論（経済学）Ⅰ	山崎　聡	経済学史	経済学の成り立ちから理論化のプロセスを歴史的に考察する。	出席・授業態度及びレポート
教科内容基礎論（経済学）Ⅱ	山崎　聡	経済思想（経済学方法論）	経済学の哲学的基礎であるメソドロジーについて知見を深める。	出席・授業態度及びレポート
教科内容基礎論（経済学）Ⅲ	山崎　聡	経済思想（倫理と経済）	倫理学と経済学との関係を考察する視点を養う。	出席・授業態度及びレポート
教科内容基礎論（哲学）Ⅰ	原崎道彦	古代的な人間観と近代的な人間観を対比させながら、近代的な人間観の特質を理解する。	今日的な問題意識をもちながら哲学の古典文献を読みこなせるようになること。	出席・授業での発表・学期末のレポートでおこなう。
教科内容基礎論（哲学）Ⅱ	原崎道彦	今日の科学技術の前提となっている近代的な自然観の特質およびその課題を理解する。	今日的な問題意識をもちながら哲学の古典文献を読みこなせるようになること。	出席・授業での発表・学期末のレポートでおこなう。
教科内容基礎論（哲学）Ⅲ	原崎道彦	近代的な社会観の基礎となった社会契約論の展開をたどりながら、その基本原理や課題を理解する。	今日的な問題意識をもちながら哲学の古典文献を読みこなせるようになること。	出席・授業での発表・学期末のレポートでおこなう。
教科内容基礎論（代数学1）Ⅰ	織田 進	教材開発のための基礎となる数学の中の代数の知識を身につけさせながら，同時にその知識を他かの人に身につけさせるためにはどうすればよいかを考察するための研究スタイルを修得させる.	基本的な専門知識の基礎を学ぶ.	ゼミ形式を基本とし，そのときの研究態度や，レポートなどを評価の対象にする.
教科内容基礎論（代数学1）Ⅱ	織田 進	教材開発のための基礎となる数学の中の代数の知識を深めながら，同時に抽象化を導入して，知識を深めるとはどういうことかを考えさせる.	数学の知識の抽象性を認識し，具体的なものとの比較を意識できるようになる.	ゼミ形式を基本とし，そのときの研究態度や，レポートなどを評価の対象にする.
教科内容基礎論（代数学1）Ⅲ	織田 進	教材開発のための基礎となる数学の中で今までに身に付いた代数の知識を振り返りながら，群は一つの演算であったが，二つの演算がはいる環，体の基本を学ぶ.	数学の知識の抽象性を認識し，具体的なものとの比較を基礎にそれを他の人に伝えることができる力をつける.	ゼミ形式を基本とし，そのときの研究態度や，レポートなどを評価の対象にする.
教科内容基礎論（代数学2）Ⅰ	佐藤淳郎	教材開発のための基礎となる代数の知識および考え方をみつけながら、同時に小中高で使われている教科書等の関連を探る.	小中高で教えられている内容が，現代の代数学とどのように結びついているかを理解する.	出席，ゼミでの発表の成果，並びにレポートにより総合的に評価する.
教科内容基礎論（代数学2）Ⅱ	佐藤淳郎	教材開発のための基礎となる代数の知識および考え方をみつけながら、同時に小中高で使われている教科書等の関連を探る.	教科内容基礎論Ⅰで学んだ内容をさらに発展させて,抽象的な代数学の考え方を見につける.	出席，ゼミでの発表の成果，並びにレポートにより総合的に評価する.
教科内容基礎論（代数学2）Ⅲ	佐藤淳郎	教材開発のための基礎となる代数の知識および考え方をみつけながら、同時に小中高で使われている教科書等の関連を探る.	教科内容基礎論Ⅰ,Ⅱで学んだ内容を基礎として，論文等の購読を行い，研究課題を見つけ問題解決にあたる.	出席，ゼミでの発表の成果，並びにレポートにより総合的に評価する.
教科内容基礎論（幾何学1）Ⅰ				
教科内容基礎論（幾何学1）Ⅱ				
教科内容基礎論（幾何学1）Ⅲ				
教科内容基礎論（幾何学2）Ⅰ	山口俊博	トポロジーの入門として位相空間の性質や例を知る	定義や例をちゃんと言える	出席，ゼミ形式発表およびテスト点を総合する.
教科内容基礎論（幾何学2）Ⅱ	山口俊博	トポロジーの最初のステップとして空間の基本群を計算する	具体例を計算できる	出席，ゼミ形式発表，およびテストの点を総合する.

授業科目名（○印は開放科目）	担当者	講義概要	達成目標	成績評価基準
教科内容基礎論（幾何学2）Ⅲ	山口俊博	トポロジーの次のステップとして空間のホモトピー群などを計算する	具体例を計算できる	出席，ゼミ形式発表およびテスト点を総合する.
教科内容基礎論（解析学）Ⅰ	加納理成	常微分方程式に用いて、初等的な解法だけでなく力学的理論等を用いて様々な現象等を解析する	現象のモデリングが理解でき、その挙動について解析学的な視点から考察できる	出席およびレポートにより総合的に評価する
教科内容基礎論（解析学）Ⅱ	加納理成	長さ・面積・体積の抽象的取扱いである積分を、より厳密な形で定義したルベーグ積分について学習する	定義と基本的な性質が理解できる	出席およびレポートにより総合的に評価する
教科内容基礎論（解析学）Ⅲ	加納理成	関数の取扱いを抽象的に行える関数空間について学習する	関数空間の定義と具体例について理解できる	出席およびレポートにより総合的に評価する
教科内容基礎論（物理学1）Ⅰ	國府俊一郎	固体は極めて身近な対象でありながら、物理の様々な分野が縦横に活躍する舞台である。その有り様を初歩の理論を用いて直観的に解説する。	固体を構成している結晶格子と伝導電子についての基本的なイメージを掴む。	出席、レポートの内容、小テストの結果を総合する。
教科内容基礎論（物理学1）Ⅱ	國府俊一郎	固体を理解するのに必要な統計熱力学を講義する	熱力学の基本概念と、統計力学によるその微視的な基礎付けを理解する。	出席、レポートの内容、小テストの結果を総合する。
教科内容基礎論（物理学1）Ⅲ	國府俊一郎	固体を理解するのに必要な量子力学の基本概念を講義する	量子力学の基本概念（確率振幅とその時間発展）を理解する。	出席、レポートの内容、小テストの結果を総合する。
教科内容基礎論（物理学2）Ⅰ	普喜　満生	物理学の中でも現代物理学で現れる物質やエネルギー、さらにミクロとマクロの世界についての理解を深める	相対論や原子物理・量子力学で現われる基本的な諸現象を理解すること.	出席状況，ゼミ形式発表の成果，およびレポート点を総合評価する.
教科内容基礎論（物理学2）Ⅱ	普喜　満生	基礎論Ⅰで身につけた知識を本に、それに関連したテーマを少し絞ってより深い理解と演習を行う。	基礎論Ⅰの諸概念を使って現代物理の諸現象を自分のことばで客観的に説明できること.	出席状況，ゼミ形式発表の成果，およびレポート点を総合評価する.
教科内容基礎論（物理学2）Ⅲ	普喜　満生	基礎論Ⅰで身につけた知識をさらに広げながら、最新の課題や話題について取り上げ、法則のより深い理解と数値実験を含めた演習を行う。	最先端分野で現れる諸現象を定量的に理解し計算問題もできること.	出席状況，ゼミ形式発表の成果，およびレポート点を総合評価する.
教科内容基礎論（化学1）Ⅰ	蒲生啓司	科学教育における化学分野の役割は何であるか，今日の化学水準で何が何処まで明らかになっているのかを認識し，有機化学を中心に教育が果たすべき役割を見出す。	化学物質の構造と反応、化学物質の発生源と存在意義、化学物質の人間生活における役割および化学物質の自然環境への影響等、化学物質についての認識を生命科学的かつ社会的存在の観点から深め、科学（理科）教育の中に位置付けることができる。	研究課題や文献調査等での「自己課題」を設定し、それに関するゼミ形式の成果発表とレポート提出に基づいた総合的な評価を行う。
教科内容基礎論（化学1）Ⅱ	蒲生啓司	科学教育における化学分野の役割は何であるか，今日の化学水準で何が何処まで明らかになっているのかを認識し，分析化学を中心に化学教育が果たすべき役割を見出す。	化学物質の構造と反応、化学物質の発生源と存在意義、化学物質の人間生活における役割および化学物質の自然環境への影響等、化学物質についての認識を生命科学的かつ社会的存在の観点から深め、科学（理科）教育の中に位置付けることができる。	研究課題や文献調査等での「自己課題」を設定し、それに関するゼミ形式の成果発表とレポート提出に基づいた総合的な評価を行う。
教科内容基礎論（化学1）Ⅲ	蒲生啓司	科学教育における化学分野の役割は何であるか，今日の化学水準で何が何処まで明らかになっているのかを認識し，環境化学を中心に化学教育が果たすべき役割を見出す。	化学物質の構造と反応、化学物質の発生源と存在意義、化学物質の人間生活における役割および化学物質の自然環境への影響等、化学物質についての認識を生命科学的かつ社会的存在の観点から深め、科学（理科）教育の中に位置付けることができる。	研究課題や文献調査等での「自己課題」を設定し、それに関するゼミ形式の成果発表とレポート提出に基づいた総合的な評価を行う。
教科内容基礎論（化学2）Ⅰ	西脇芳典	発展的な化学教育実践を念頭に、物質を構成する元素の特性を中心に無機化学の基礎を学ぶ。その上で、無機物質が身近な工業製品としていかに役立てられているかを理解する。	元素の特性を理解し、化学的目線で身近な物質を評価できる。	受講状況、口頭発表、レポートを総合的に評価する。
教科内容基礎論（化学2）Ⅱ	西脇芳典	発展的な化学教育実践を念頭に、物質の分子構造、元素構成等を明らかにするために必要な機器分析の基礎を学ぶ。最新の機器分析についても紹介する。	機器分析の基礎的事項を理解し、どのような場合にその機器を適用するかを自分で考えることができる。	受講状況、口頭発表、レポートを総合的に評価する。
教科内容基礎論（化学2）Ⅲ	西脇芳典	発展的な化学教育実践を念頭に、安心・安全のための化学を学ぶ。実例を通して、化学が安心・安全な社会を実現するためにいかに役立てられているかを理解する。	安心・安全に関する化学を理解し、理科教育の現場でその重要性を説明・実践することができる。	受講状況、口頭発表、レポートを総合的に評価する。
教科内容基礎論（生物学1）Ⅰ	原田哲夫	人間を含めた生物の環境変動への適応に関して、理解を深め将来の理科授業実践に生かす。	人間を含めた生物の環境変動への適応に関する内外の資料（英文、日本語）を適切に検索でき、正確に理解できる水準を達成する。	左記の内外資料の正確で迅速な検索能力と読解・理解能力を評価基準とする。

授業科目名（○印は開放科目）	担当者	講義概要	達成目標	成績評価基準
教科内容基礎論（生物学1）Ⅱ	原田哲夫	人間を含めた生物の環境変動への適応に関して、最新の情報を自ら検索、理解し、将来の理科授業実践に生かす。	人間を含めた生物の環境変動への適応に関する内外資料をある特定分野についてレビューできる水準を達成する。	人間を含めた生物の環境変動への適応に関する内外資料をある特定分野について適切にレビューできるかを評価基準とする。
教科内容基礎論（生物学1）Ⅲ	原田哲夫	人間を含めた生物の環境変動への適応に関して、最新の情報を自ら検索、理解し、さらにその内容を基に、小中高の理科の具体的教材化の可能性を探求し、将来の理科授業実践に生かす。	人間を含めた生物の環境変動への適応に関する内外の資料の内容を基にした、小中高の理科の具体的教材作成を達成する。	人間 を含めた生物の環境変動への適応に関する内外の資料の内容を基に、小中高理科の具体的教材作成が達成できたかを基準とする。
教科内容基礎論（生物学2）Ⅰ	伊谷　行	自然感の豊かな教員養成を念頭に、生物の種多様性を認識することを目的として、分類学、生態学に関する講義を行う。特に、日本で見られる身近な自然を題材とする。	分類学、生態学に関わる基礎的事項を理解している.	出席，ゼミ形式発表と英文文献解説の成果，およびレポート点を総合する.
教科内容基礎論（生物学2）Ⅱ	伊谷　行	生物の種多様性を認識することを目的として、分類学、生態学に関する演習を行う。特に、日本で見られる身近な自然を題材とする。	分類学、生態学の基礎的事項とそれらの関連を理解している.	出席，ゼミ形式発表と英文文献解説の成果，およびレポート点を総合する.
教科内容基礎論（生物学2）Ⅲ	伊谷　行	生物の種多様性がどのようにしてつくられたのかを知り、また、その多様性を失わないための方策を検討することを目的として、生態学、分類学分野の最新論文を講読し、発表と討論を行う。	保全生物学の重要事項を理解し，生態系の保全について自力で考えることができる.	出席，ゼミ形式発表と英文文献解説の成果，およびレポート点を総合する.
教科内容基礎論（地学1）Ⅰ		惑星システムとしての固体地球の特徴を他の地球型惑星との比較の視点から学ぶ。さらに、地球に特有なプレートテクトニクス全般について学ぶ。	固体地球全体に関わる基礎的事項を理解している.	出席，ゼミ形式発表と英文文献解説の成果，およびレポート点を総合する.
教科内容基礎論（地学1）Ⅱ		Ⅰで学んだ固体地球の全体的理解に基づき、測地・地震・火山・地磁気の各分野について、特に現在の状況について、惑星システムやプレートテクトニクスとの関連を学ぶ。	固体地球各分野の基礎的事項とそれらの関連を理解している.	出席，ゼミ形式発表と英文文献解説の成果，およびレポート点を総合する.
教科内容基礎論（地学1）Ⅲ		Ⅰ・Ⅱで学んだ固体地球の全体的および各分野の理解に基づき、地球の歴史とともに変化した固体地球現象を、特に古地磁気や古環境の視点から学び、地球惑星の将来を考察する。	地球史の重要事項を理解し，地球の将来について自力で考えることができる.	出席，ゼミ形式発表と英文文献解説の成果，およびレポート点を総合する.
教科内容基礎論（地学2）Ⅰ	赤松　直	地球や惑星を構成する物質である鉱物についての基礎知識を学ぶ。	地球惑星科学における物質科学の役割を理解する。	レポート，受講状況による総合評価。
教科内容基礎論（地学2）Ⅱ	赤松　直	「教科内容基礎論（地学2）Ⅰ」の内容をふまえた上で，鉱物の諸物性を求めるための計算機シミュレーション（特に分子動力学法）の手法を修得する。	分子動力学シミュレーションの手法を修得するとともに，物質科学への応用についての理解を深める。	レポート，受講状況による総合評価。
教科内容基礎論（地学2）Ⅲ	赤松　直	「教科内容基礎論（地学2）Ⅱ」の内容に引き続き，外国語文献の購読，シミュレーション等の演習の要素も含めつつ，研究方法を修得する.	地球惑星科学における物質科学の役割や分子動力学シミュレーションの手法を理解した上で，研究の方法を習得する。	レポート，受講状況による総合評価。
教科内容基礎論（英語学1）Ⅰ	谷口雅基	英語音声の理論を研究するとともに日本人の英語コミュニケーション能力の向上のために、その理論をいかに応用すべきかについて考察する。	英語音声の理論を把握し、英語音声運用能力を国際的に通用するレベルへ向上させ、英語で研究発表を行い、研究論文を書く能力を養成。	課題レポート30%、口頭発表50%、出席20%
教科内容基礎論（英語学1）Ⅱ	谷口雅基	英語の音声、リズム、イントネーションにおける種々の現象を考察し、日本人向けの教育改善法を考究する。	英語音声の理論を把握し、英語音声運用能力を国際的に通用するレベルへ向上させ、英語で研究発表を行い、研究論文を書く能力を養成。	課題レポート30%、口頭発表50%、出席20%
教科内容基礎論（英語学1）Ⅲ	谷口雅基	英語の音声、リズム、イントネーションにおける種々の現象を考察し、それを応用して　日本人向けのオーラルコミュニケーション教育改善法を考究する。	英語音声の理論を把握し、英語音声運用能力を国際的に通用するレベルへ向上させ、英語で研究発表を行い、研究論文を書く能力を養成。	課題レポート30%、口頭発表50%、出席20%
教科内容基礎論（英語学2）Ⅰ	松原　史典	英語学の定義及びその体系を紹介する。特に英語学における統語論（付随して形態論及び意味論）に焦点をあて、生成文法理論の基本的な考え方を学び、文・句の階層構造、束縛現象、移動現象などを議論する。	英語学の体系を理解し、統語理論の必要性・重要性を認識すること。特に句構造を階層的に分析する。	毎回の出席、授業発表　（70～80%）と小テスト及びレポート（20～30 %）を考慮し総合的に評価する。
教科内容基礎論（英語学2）Ⅱ	松原　史典	英語学における統語論（付随して形態論及び意味論）に焦点をあて、生成文法理論の理解をさらに深めるために、移動現象、決定詞句構造（DP仮説）、動詞句構造（vP-shell Structure）、空範疇、コントロール構文、移動の局所性制約などを検証する。	生成文法の習得を目標とする。特に、i）移動現象と局所性条件、ii）DP構造とvP-shell構造、iii）Raising vs. Controlなどを中心に。	毎回の出席、授業発表　（70～80%）と小テスト及びレポート（20～30 %）を考慮し総合的に評価する。
教科内容基礎論（英語学2）Ⅲ	松原　史典	英語学における統語論（付随して形態論及び意味論）に焦点をあて、特にミニマリスト統語理論の理解・習得を目的とする。ミニマリスト統語理論の基本的な考え方とその理論的枠組みを議論する。	ミニマリスト統語理論の習得を目標とする。特に、i）素性と一致、ii）Phaseの意義、iii）移動のコピー理論などを中心に。	毎回の出席、授業発表　（70～80%）と小テスト及びレポート（20～30 %）を考慮し総合的に評価する。
教科内容基礎論（英米文学）Ⅰ	長谷川雅世	David Lodge著のThe Art of Fiction: Illustrated from Classic and Modern Textsの前半部分を読んで、英米小説をより深く理解し楽しむための批評理論の概念や小説の技法について学ぶ。また、本書には、様々な英米小説の名作が引用されているので、それらを読むことで英語力と共に英米文学についての知識をも養ってほしい。	基本的な文学批評の概念と小説の手法について理解し、それらを使って自らが作品分析できるようにする。英語力と英米文学についての知識を身につける。	平常点（出席・予習・授業態度など）30%、発表・通常授業時の課題 30%、期末レポート 40%。（全授業回数の3分の1以上欠席した受講者は、成績評価の対象者にはしない）

授業科目名（〇印は開放科目）	担当者	講義概要	達成目標	成績評価基準
教科内容基礎論（英米文学）Ⅱ	長谷川雅世	David Lodge著のThe Art of Fiction: Illustrated from Classic and Modern Textsの後半部分を読んで、英米小説をより深く理解し楽しむための批評理論の概念や小説の技法について学ぶ。また、本書には、様々な英米小説の名作が引用されているので、それらを読むことで英語力と共に英米文学についての知識をも養ってほしい。	基本的な文学批評の概念と小説の手法について理解し、それらを使って自らが作品分析できるようにする。英語力と英米文学についての知識を身につける。	平常点（出席・予習・授業態度など）30%、発表・通常授業時の課題 30%、期末レポート 40%。（全授業回数の3分の1以上欠席した受講者は、成績評価の対象者にはしない）
教科内容基礎論（英米文学）Ⅲ	長谷川雅世	チャールズ・ディケンズの『クリスマス・キャロル』を原文で読み、ディケンズの英語のおもしろさを味わう。また、授業では、異なった視点からこの作品を論じた幾つかの論文読み、『クリスマス・キャロル』をより楽しむと同時に、小説を批評するとは如何なることなのかを理解する。	決して簡単ではないディケンズの英語、そして本格的な批評論文を読むことで、英語力を養う。同時に、小説の批評とは何かを理解し、自ら作品の批評が書けるようにする。	平常点（出席・予習・授業態度など）30%、発表・通常授業時の課題 30%、期末レポート 40%。（全授業回数の3分の1以上欠席した受講者は、成績評価の対象者にはしない）
教科内容基礎論（声楽）Ⅰ	小原浄二	声楽作品についての普遍的かつ芸術的表現のあり方について論及する。	作曲者や作詞者を取り巻く時代背景や社会を理解し、時代に即した演奏習慣に基づいて、豊かな表現で美しく歌うことが出来る。	出席。発表形式の歌唱実践によって曲の解釈と表現力を判断する。
教科内容基礎論（声楽）Ⅱ	小原浄二	J.S.バッハの声楽作品、ロマン派のドイツリートを中心に曲の解釈と演奏法について研究を深め、歌唱技法の実践を通して、より高い芸術性を追求する。	各作品についての内容を理解し表現豊かに歌うことが出来る。演奏様式の認識と重要性を演奏一般の中で位置づけることが出来る。	出席。発表形式の歌唱実践によって曲の解釈と表現力を判断する。
教科内容基礎論（声楽）Ⅲ	小原浄二	バロック･古典の宗教曲及びオペラ、ロマン派の歌曲からイタリア後期ロマン派オペラに至るまでの作品について、芸術的な歌唱表現について論及する。	演奏様式の認識を演奏一般の中で位置づけることが出来る。様々な演奏について自分の言葉で分析、批評が出来る。	出席。発表形式の歌唱実践によって曲の解釈と表現力を判断する。
教科内容基礎論（器楽1）Ⅰ	脇岡宗一	独奏曲のレパートリーを広げると伴に呼吸法の確立をめざす。	深い響きを獲得できる	試験で独奏曲を演奏しそれを評価する
教科内容基礎論（器楽1）Ⅱ	脇岡宗一	近代から現代にかけての独奏曲を中心に進めていく	フランス作品のレパートリーが増える	試験でフランス作品を中心に演奏をしそれを評価する
教科内容基礎論（器楽1）Ⅲ	脇岡宗一	器楽（管楽器）Ⅰ、Ⅱに加え、オーケストラの中での楽曲とその奏法を研究する	主要なオーケストラの作品を研究し、その中のソロが吹けるようになる	試験で協奏曲を演奏しそれを評価する
教科内容基礎論（器楽2）Ⅰ	宮田信司	ピアノの演奏法と楽曲の分析、解釈について研究を深める。	選択した楽曲について、分析や様々な演奏解釈を理解した上で、試験などで演奏発表することができる。	出席、日頃の練習の成果発表および演奏試験の結果を総合する。
教科内容基礎論（器楽2）Ⅱ	宮田信司	教科内容基礎論（器楽2）Ⅰに加え、ピアノの演奏法と楽曲の分析、解釈についてさらに研究を深める。	選択した楽曲について、分析や様々な演奏解釈を理解した上で、試験などで演奏発表することができる。	出席、日頃の練習の成果発表および演奏試験の結果を総合する。
教科内容基礎論（器楽2）Ⅲ	宮田信司	教科内容基礎論（器楽2）Ⅱに加え、ピアノの演奏法と楽曲の分析、解釈についてさらに研究を深める。	選択した楽曲について、分析や様々な演奏解釈を理解した上で、試験などで演奏発表することができる。	出席、日頃の練習の成果発表および演奏試験の結果を総合する。
教科内容基礎論（音楽学）Ⅰ	高橋美樹	世界の諸民族の音楽を様々な角度から考察する。音楽が人々にとってどのような意味をもつのか、社会構造と音楽の関係、自国の音楽と近隣諸国の音楽との関係、伝承の形態、非西洋社会における西洋音楽の受容、マスメディアの発達などに着目する。	1. 世界の諸民族の音楽について、興味・関心をもつことができる。 2. 各自が選択した研究アプローチにそって、音楽文化の構造を描き出すことができる。	レポートを最重視（70%）し、授業中の討論への参加の度合い（10%）と出席（20%）を加味して、総合的に判断する。
教科内容基礎論（音楽学）Ⅱ	高橋美樹	世界の諸民族の音楽を対象とした各自の研究テーマを設定し、先行研究を整理した後、文献、楽譜、音響資料などを調査分析した上で、口頭発表、論文の完成を目指す。	1. 研究テーマに関する先行研究を整理することができる。 2. 研究計画書を作成し、文献・音響調査を行うことができる。 3. 口頭発表に用いるレジュメや音響資料を準備することができる。	口頭発表とレポートを最重視（70%）し、授業中の討論への参加の度合い（10%）と出席（20%）を加味して、総合的に判断する。
教科内容基礎論（音楽学）Ⅲ	高橋美樹	世界の諸民族の音楽を対象とした各自の研究テーマを設定し、文献、楽譜、音響資料などを調査分析した上で、研究論文の完成を目指す。	1. 研究計画書を作成し、各自の研究方法に基づき、研究を進めることができる。 2. 口頭発表の質疑応答を活かして、研究論文を完成させることができる。	口頭発表と研究論文を最重視（70%）し、授業中の討論への参加の度合い（10%）と出席（20%）を加味して、総合的に判断する。
教科内容基礎論（作曲法）Ⅰ	前田　克治	楽曲分析。作曲（編曲）の基礎知識、技能の習得。	和声や旋律、形式について理解を深め、簡単な作編曲能力と、音楽を自ら解釈する力を養う	最終週での研究発表、平常点、出席によって評価する
教科内容基礎論（作曲法）Ⅱ	前田　克治	各自の課題に基く楽曲分析。作曲（編曲）を通した音楽表現の研究。	それぞれ演奏（器楽、声楽）、研究、教育の観点から、実践的な作編曲能力、音楽を分析する力を培う	最終週での研究発表、平常点、出席によって評価する

授業科目名（○印は開放科目）	担当者	講義概要	達成目標	成績評価基準
教科内容基礎論（作曲法）Ⅲ	前田　克治	楽曲分析、作曲（編曲）をもとに、「作曲法Ⅱ」からさらに深化した、より独自の音楽表現の追求。	それぞれ演奏（器楽、声楽）、研究、教育の観点から、さらに専攻テーマに連動した高度な作編曲能力、音楽を分析する力を培う	最終週での研究発表、平常点、出席によって評価する
教科内容基礎論（絵画1）Ⅰ	土井原　崇浩	絵画制作の基礎となるデッサンの習得。自然物や大型石膏像などをB全紙大のパネルに素描し、立体感、質感、存在感、空間感を表現する。感性のある美しい作品を目指す。構図法と素描論も学び、身につける。	人体石膏像の立体的構造を学び、素描に関する技能を身につけ、作品を完成させることができるようになる。	提出作品＝60% 授業態度＝20% 出席状況＝20%
教科内容基礎論（絵画1）Ⅱ	土井原　崇浩	「教科内容基礎論Ⅰ」を踏まえ、F6スケッチブックにヨーロッパ古典技法の羽根ペンと没食子インクを使用して自然物をデッサンする。ルネサンス時代の巨匠たちの素描も模写する。	素描画の古典技法を学び、技法材料の知識と技能を備えた上で、作品を完成させることができるようになる。	提出作品＝60% 授業態度＝20% 出席状況＝20%
教科内容基礎論（絵画1）Ⅲ	土井原　崇浩	「教科内容基礎論Ⅰ、Ⅱ」を踏まえ、ヨーロッパ絵画における技法と材料を熟知し、造形力を身につける。油彩で自然物や人工物をモチーフとした静物画を描く。モチーフをグリザイユ的（無彩色）に描き、その後に固有色(有彩色)を塗る手法でF50号の作品を描く。デッサンと油彩画の一貫性を追求する。	西洋画の伝統技法を学び、経年劣化しにくい作品を完成させることができるようになる。	提出作品＝60% 授業態度＝20% 出席状況＝20%
教科内容基礎論（絵画2）Ⅰ	野角孝一	モチーフを観察し、綿密な着彩写生を基にして、日本画制作を行う。写生から下図を作成し、本画へと移行する際、より緊張感ある形を検討し、固有色とそれを活かすための下地を工夫する。水干絵具や岩絵具などの顔料を展色材となる膠を混ぜ合わせ、画面の状態や意図によってその分量を操作することを身につける。また授業の最終回では作品の講評を行い、それぞれの課題をチェックする。	ものの見方を養う写生から、日本画の本制作を行う工程を通して、日本画における基本的な制作方法を身につける。また日本画の材料となる和紙や絹などの基底材、筆や刷毛の役割、種類、材料などの解説を行い、制作を行うことによってその違いを肌で実感することを目標とする。さらに膠、水干絵具、岩絵具、胡粉などの基本的な使用方法を習得する。	受講姿勢、出席状況、提出物により総合的に評価する。
教科内容基礎論（絵画2）Ⅱ	野角孝一	最初に墨を用いた「鳥獣戯画」の模写を行い、基本的な線描の訓練を行う。上げ写しによる模写の方法を学習し、作品における運筆を分析し、それを実際に制作する。また落款の描き入れのために朱の溶き方を解説する。次に水干絵具と箔を用いた静物制作を行い、箔の押し方や裏箔および裏彩色を利用した制作方法を学習する。いずれの作品も補強のための裏打ちを行う。	日本画における技術の習得と、先人の作品に対する想いを追体験する為に模写を行う。自分の癖ではなく、作品の運筆を学習することによって、自分にはない解釈や表現方法を獲得する。また伝統的な材料である箔を使用した制作を行い、その技法を修得する。	受講姿勢、出席状況、作品により総合的に評価する。
教科内容基礎論（絵画2）Ⅲ	野角孝一	作例を通して日本美術と特に中国における美術の流れを追いながら、日本と東洋における美術史を俯瞰する。作品様式はもちろんのこと、作品に使用されている描画材料等を実際に提示し、それらを切り口とした文化の交流についても言及する。	日本美術史の概説を理解し、説明することができる。	受講姿勢、出席状況、提出物により総合的に評価する。
教科内容基礎論（彫刻）Ⅰ	阿部鉄太郎	彫刻の諸領域(塑造、テラコッタ、鋳造)の各技法研究、ならびに人体具象彫刻についての研究を行う。	彫刻の各技法に関し理解を深めると共に、人体具象彫刻に関した研究テーマを設定し、研究することができる。	出席及び研究テーマに沿った作品、レポートの評価。
教科内容基礎論（彫刻）Ⅱ	阿部鉄太郎	「教科内容基礎論(彫刻)Ⅰ」をふまえ、作品を制作すること等でさらに研究を深める。	人体具象彫刻に関し、作品制作により更に理解を深めることができる。	出席及び研究テーマに沿った作品、レポートの評価。
教科内容基礎論（彫刻）Ⅲ	阿部鉄太郎	「教科内容基礎論(彫刻)Ⅱ」をふまえ、作品を制作すること等でさらに研究を深める。	人体具象彫刻に関し、作品制作により更に理解を深めることができる。	出席及び研究テーマに沿った作品、レポートの評価。
教科内容基礎論（デザイン）Ⅰ	吉岡一洋	グラフィックデザイン領域における制作実践をおこなう。自主制作を課し、制作体験から創造力と美的感覚を感じ取り、デザインの原理を探求する。	グラフィックデザイン及び印刷・出版に関する基礎的内容を理解し説明できる。	出席及び研究テーマに沿った作品、レポートの評価。
教科内容基礎論（デザイン）Ⅱ	吉岡一洋	「教科内容基礎論（デザイン）Ⅰ」をふまえ、作品制作すること等でさらに研究を深める。	実社会でおこる事象に対して、調査・分析・提案・遂行という観点をデザインプロセスとして意識し、問題解決するデザイン思考と理論を理解する。	出席及び研究テーマに沿った作品、レポートの評価。
教科内容基礎論（デザイン）Ⅲ	吉岡一洋	「教科内容基礎論（デザイン）Ⅱ」をふまえ、作品制作すること等でさらに研究を深める。	デザインが生活・環境・社会といかに関係しているのか理解し、説明できる。着想やアイデアを様々な手法・技術により定着することができる。	出席及び研究テーマに沿った作品、レポートの評価。
教科内容基礎論（美術史）Ⅰ		美術史研究における主要な方法論（技法論、様式論、図像学、その他）について、基礎的文献の講読と報告・発表を行う。		
教科内容基礎論（美術史）Ⅱ		各学生の専門分野に関連の深い美術史論文・研究書の講読・報告発表を通じて、研究課題に適した方法論を批判的に検討しながら学ぶ。		
教科内容基礎論（美術史）Ⅲ		I・IIで学んだ美術史的論理展開の方法論を踏まえ、各学生の研究課題ならびに関連する領域の美術史上の作品を取り上げ、必要な文献を探索し読み込みつつ、研究対象の美術史上の位置づけについて考察する。		

授業科目名（○印は開放科目）	担当者	講義概要	達成目標	成績評価基準
教科内容基礎論（工芸）Ⅰ	吉光　誠之	木材工芸の諸領域(指物、刳物、挽物)の各技法研究、ならびに日本文化における「木」をキーワードとした研究を行う。	木材工芸の各技法に関し、理解を深めると共に、「木」に関した研究テーマを設定し、研究することができる。	出席及び研究テーマに沿ったレポートの評価。
教科内容基礎論（工芸）Ⅱ	吉光　誠之	「教科内容基礎論（工芸）Ⅰ」をふまえ、作品を制作すること等でさらに研究を深める。	木材工芸の各技法に関し、作品制作により更に理解を深めることができる。	出席及び研究テーマに沿った作品の評価。
教科内容基礎論（工芸）Ⅲ	吉光　誠之	「教科内容基礎論（工芸）Ⅱ」をふまえ、作品を制作すること等でさらに研究を深める。	木材工芸の各技法に関し、作品制作により更に理解を深めることができる。	出席及び研究テーマに沿った作品の評価。
教科内容基礎論（体育学1）Ⅰ				
教科内容基礎論（体育学1）Ⅱ				
教科内容基礎論（体育学1）Ⅲ				
教科内容基礎論（体育学2）Ⅰ	辻田　宏	受講生の興味･関心に基づき、体育･スポーツのマネジメント、体育･スポーツ法（Law）、スポーツ産業など、スポーツの社会科学的領域の中から、テーマを絞りながら論及する。	スポーツの社会科学的領域に関する知識を深め，スポーツマネジメントとスポーツ法，スポーツ権と市民スポーツの関係性を理解する。	中間レポートと最終レポートをもって評価する。配点は，中間レポート1回目10点，2回目及び3回目各20点，最終レポート50点。
教科内容基礎論（体育学2）Ⅱ	辻田　宏	体育･スポーツのマネジメント，スポーツ産業など，スポーツの社会科学的領域の中から，学生自らが課題設定を行い，研究を深める。	修士論文の基礎となる専門的知識や研究方法を身に付けると共に，課題設定･解決のための論理的思考力や創造性を身に付ける。	前半サイクルのレポート30点，プレゼンテーション20点，後半サイクルも同様の配点を行い，それらの総合点で評価する。
教科内容基礎論（体育学2）Ⅲ	辻田　宏	体育･スポーツ法（Law）に関する分野について，学生自らが課題設定を行い，研究を深める。	修士論文の基礎となる専門的知識や研究方法，課題解決力を身に付けると共に，論文やレポート作成のための技術や方法を修得する。	前半サイクルのレポート30点，プレゼンテーション20点，後半サイクルも同様の配点を行い，それらの総合点で評価する。
教科内容基礎論（体育学3）Ⅰ	矢野宏光	受講生の興味･関心に基づき、スポーツ、運動、健康と心理的側面との関連性について基礎的研究成果の中から、テーマを絞りながら論及する。	スポーツ、運動、健康と心理的側面との関連性について理解する。	出席（30%）授業後半の発表（40%）、レポート（30%）から評価する。
教科内容基礎論（体育学3）Ⅱ	矢野宏光	スポーツ、運動、健康と心理的側面との関連性についての文献のうち、自己の研究課題に関連する文献を取り上げ、深く掘り下げ、理解する。	スポーツ、運動、健康と心理的側面との関連性についての文献を収集し、深く掘り下げ、理解する。	出席（30%）および発表（70%）から評価する。
教科内容基礎論（体育学3）Ⅲ	矢野宏光	スポーツ、運動、健康と心理的側面との関連性についての文献のうち、自己の研究課題に関連する文献を取り上げ、深く掘り下げ、理解し、課題解決の方策を検討する。	心と身体の関連性について深く掘り下げ、理解する。さらに自己の研究課題の問題解決の方策を探る。	出席（30%）および発表（70%）から評価する。
教科内容基礎論（運動学1）Ⅰ		運動の特性、技術構造を運動方法論の立場から捉え、教材開発のための基礎研究力を育成する。ダンスを中心に行う。	ダンスの運動の特性、技術構造を理解し、ダンスの教材開発について考察することができる。	出席、ゼミ形式発表と文献解説の成果及びレポート点を総合する。
教科内容基礎論（運動学1）Ⅱ		運動学1－Ⅰの講義内容をふまえて、ダンスの文化論、特性論、構造論、教育論の中から、学生が自らの課題設定を行い、研究を深める。	ダンスの文化論、特性論、構造論、教育論の中から自ら課題設定を行い、研究を深めることができる。	出席、ゼミ形式発表と文献解説の成果及びレポート点を総合する。
教科内容基礎論（運動学1）Ⅲ		運動学1－Ⅱの演習内容をふまえて、学生が自らの課題設定を行い、研究を深める。	運動楽1－Ⅱの成果をふまえて、さらに研究を深めることができる。	出席、ゼミ形式発表と文献解説の成果及びレポート点を総合する。
教科内容基礎論（運動学2）Ⅰ	駒井　説夫	受講生の興味･関心に基づき、運動に対する身体の適応について基礎的研究成果の中から、テーマを絞りながら論及する。	運動に対する身体の適応について理解する。	出席（30%）授業後半の発表（40%）、レポート（30%）から評価する。
教科内容基礎論（運動学2）Ⅱ	駒井　説夫	運動に対する身体の適応についての文献のうち自己の研究課題に関連する文献を取り上げ、深く掘り下げ、理解する。	運動に対する身体の適応に関する文献を収集し、深く掘り下げ、理解する。	出席（30%）および発表（70%）から評価する。
教科内容基礎論（運動学2）Ⅲ	駒井　説夫	運動に対する身体の適応についての文献のうち自己の研究課題に関連する文献を取り上げ、深く掘り下げ、理解し、課題解決の方策を検討する。	運動に対する身体の適応に関する文献を収集し、深く掘り下げ、理解する。さらに自己の研究課題の問題解決の方策を探る。	出席（30%）および発表（70%）から評価する。
教科内容基礎論（運動学3）Ⅰ	野地照樹	スポーツにおけるコーチングの諸問題とコーチングのあり方について理解を深める。	各自の専門とするスポーツ種目のコーチングの基本を理解する。	出席、プレゼンテーション、およびリポート等、総合的に評価する。

授業科目名（○印は開放科目）	担当者	講義概要	達成目標	成績評価基準
教科内容基礎論（運動学3）Ⅱ	野地照樹	スポーツにおけるコーチングの諸問題とコーチングに関する文献や資料を収集整理し、考察の仕方について演習を行う。	スポーツのコーチングの諸問題を解決できる能力をつける。	出席、プレゼンテーション、およびリポート等、総合的に評価する。
教科内容基礎論（運動学3）Ⅲ	野地照樹	Ⅰ,Ⅱで学習した内容を現場で実践し、より効果的なコーチングができるようになる。	実際に現場での指導がより効果的にできるようになる。	指導案、オーガニゼーション、および現場での指導を総合的に評価する。
教科内容基礎論（学校保健）Ⅰ	本間聖康	児童・生徒の健康、安全や体力などの現状や問題点に関する文献を読み、現状や問題点を整理しまとめる	児童・生徒の健康、安全や体力などの現状や問題点を理解することが下着る	出席，ゼミ形式発表の成果，およびレポートを総合的に評価する.
教科内容基礎論（学校保健）Ⅱ	本間聖康	学生の興味・関心にもとづき、児童・生徒の健康、安全や体力などの問題点を研究課題として取り上げ、研究課題に関して深く理解する	児童・生徒の健康、安全や体力などの問題点を研究課題として取り上げ、深く理解することができる	出席，ゼミ形式発表の成果，およびレポートを総合的に評価する.
教科内容基礎論（学校保健）Ⅲ	本間聖康	学生の興味・関心にもとづき、児童・生徒の健康、安全や体力などの問題点を研究課題として取り上げ、研究課題に関して深く理解し、自らも課題に関して検討を加える。	児童・生徒の健康、安全や体力などの問題点を研究課題として取り上げ、自らも課題に関して検討を加えることができる。	出席，ゼミ形式発表の成果，およびレポートを総合的に評価する.
教科内容基礎論（機械）Ⅰ	裏垣　博	工業用材料及び構造物の健全性を確認するための各種非破壊試験方法の原理・特徴を理解させることを目的とする。	授業計画に掲げた内容について，理解する。	出席状況を含む平生点とレポートを考慮して総合的に評価する。
教科内容基礎論（機械）Ⅱ	裏垣　博	工業用材料及び構造物の健全性を確認するための各種非破壊試験方法に関する文献の講読と演習を行う。	授業計画に掲げた内容について，理解する。	出席状況と授業への取組，レポート等を考慮して総合的に評価する。
教科内容基礎論（機械）Ⅲ	裏垣　博	課題研究のテーマに応じて，文献調査・講読等を行う。	授業計画に掲げた内容について，理解する。	出席状況と授業への取組，レポート等を考慮して総合的に評価する。
教科内容基礎論（電気）Ⅰ				
教科内容基礎論（電気）Ⅱ				
教科内容基礎論（電気）Ⅲ				
教科内容基礎論（家庭経営学）Ⅰ	森田美佐	家庭経営学に関して、教材開発の基礎となる学問的な知識とともに、その知識を身につけるための研究スタイルを習得させる（特に、基礎的文献を用いた演習）。	家庭の経営をシステムとして理解するための知識を培うことができる	出席，ゼミ形式発表、レポート点を総合する.
教科内容基礎論（家庭経営学）Ⅱ	森田美佐	家庭経営学に関して、教材開発の基礎となる学問的な知識とともに、その知識を身につけるための研究スタイルを習得させる（特に、院生の研究課題に対応する文献を用いた演習を実施）。	個人と家族・家庭生活の質向上の視点から、現代社会の問題点を読み解くことができる.	出席，ゼミ形式発表、レポート点を総合する.
教科内容基礎論（家庭経営学）Ⅲ	森田美佐	家庭経営学に関して、教材開発の基礎となる学問的な知識とともに、その知識を身につけるための研究スタイルを習得させる（教科内容基礎論Ⅱの発展的位置づけ）	持続可能な社会形成に向けて、主体的に行動するための力を、家庭経営学の視点から身につける	出席，ゼミ形式発表、レポート点を総合する.
教科内容基礎論（被服学）Ⅰ	田村和子	被服教材開発のための基礎研究力の育成を目的として、文献の講読と被服設計等を行う。	被服設計について客観的視点から考察することができる。	出席、ゼミ形式発表と文献解説、被服設計及びレポート点を総合する。
教科内容基礎論（被服学）Ⅱ	田村和子	教科内容基礎論（被服学）Ⅰで学んだ事項に関する知識を深め被服設計（被服実習）等を行う。	文献をもとに被服設計を実際に行い、総合的に被服を把握する	出席、被服設計発表、及びレポート点を総合する。
教科内容基礎論（被服学）Ⅲ	田村和子	課題研究のテーマに応じて，文献調査・被服設計（被服実習）等を行う。	開発した被服の有効性を検討する研究方法を習得する	出席、ゼミ形式発表と文献解説、被服設計およびレポート点を総合する。
教科内容基礎論（食物学）Ⅰ		家政学の一領域としての食物領域の関連科目として、学部で履修した栄養学・食品学・調理学とその実習、食生活論等を基に、暮らしに密着した健全な食を営むために「食」環境とのつながりを視野とした食生態学を学習し、その視点から教科内容の再構築を図る。		

授業科目名（○印は開放科目）	担当者	講義概要	達成目標	成績評価基準
教科内容基礎論（食物学）Ⅱ		教科内容基礎論（食物学）Ⅰの専門・基礎知識を基に、特に食物とその教育（栄養・食教育、調理教育）の教材開発の基礎となる知識を身につけると共に、その知識を身につける研究スタイルを習得させる。		
教科内容基礎論（食物学）Ⅲ		教科内容基礎論（食物学）Ⅱを展開し、教材開発をすすめる全プロセス、教育実践による開発した教材の有効性や妥当性に関する研究・方法（論）を身につける。		
教科内容基礎論（住居学）Ⅰ	西島　芳子	住居教材開発のための基礎研究力の育成を目的とする。		
教科内容基礎論（住居学）Ⅱ		住居教材開発のための基礎研究力の育成を目的とする。		
教科内容基礎論（住居学）Ⅲ		住居教材開発のための基礎研究力の育成を目的とする。		
教科内容基礎論（異文化理解）Ⅰ	柳川平太郎	ヨーロッパ・マイノリティ文化研究 ――西欧国民国家とユダヤ人――	ユダヤ人・ロマなどのヨーロッパにおける代表的マイノリティーに関する基本的知識を把握する。	ヨーロッパにおける宗教的マイノリティーに関するレポートと報告に基づいて評価する。
教科内容基礎論（異文化理解）Ⅱ	柳川平太郎	近世ヨーロッパ・マイノリティ文化研究 ――近世ドイツ・ユダヤ人文化研究――	近世ドイツの代表的都市におけるユダヤ人居住形態に関する原書を読めるようにする。	原書講読演習時の発表能力と出席点を半々に評価する。
教科内容基礎論（異文化理解）Ⅲ	柳川平太郎	ヨーロッパにおける異文化交流の諸相 ――近世・近代ヨーロッパにおける異文化交錯の多様性――	ドイツ以外の英仏等代表的都市におけるユダヤ人居住形態に関する原書を読めるようにする。	原書講読演習時の発表能力と出席点を半々に評価する。
教科内容基礎論（地域伝統文化）Ⅰ		上代から中古・中世に至るまでの日本歌謡史（芸能史）の展開を、地域・庶民歌謡の系譜という視点でとらえて考察し、併せて地域の民俗・芸能などの背景についても論究する。		
教科内容基礎論（地域伝統文化）Ⅱ		中世から近世・近代に至るまでの日本歌謡史（芸能史）の展開を、地域・庶民歌謡の系譜という視点でとらえて考察し、併せて地域の民俗・芸能などの背景についても論究する。		
教科内容基礎論（地域伝統文化）Ⅲ		中・近世歌謡の代表的存在である室町小歌関連の諸作品について、文献学的・注釈的視点および民俗学的視点を基盤として講読、考究する。		
教科内容基礎論（環境教育）Ⅰ	國府俊一郎	グローバルな地球システムの視点から地球環境科学を学ぶ。	地球環境科学のうち、物理的視点から温暖化や大気・海洋現象等についての基本的理解を目指す。	出席，ゼミ形式発表と英文文献解説の成果，およびレポート点を総合する.
教科内容基礎論（環境教育）Ⅱ	國府俊一郎	グローバルな地球システムの視点から地球環境科学を学ぶ。	地球環境科学のうち、物理的視点から基本的な或いは最新の文献（英文）を検索・講読して理解を深める。	出席，ゼミ形式発表と英文文献解説の成果，およびレポート点を総合する.
教科内容基礎論（環境教育）Ⅲ	普喜　満生	グローバルな地球システムの視点から地球環境科学を学ぶ。	地球環境科学のうち、太陽と地球に着目し、その基本的理解を基に、最新の文献（英文）を検索し、理解できる。	出席，ゼミ形式発表と英文文献解説の成果，およびレポート点を総合する.
教育実践研究（国語）Ⅰ	渡邊春美・北吉郎	研究課題を明確にするとともに、学習者把握力、教材開発・教材研究力、授業構想力、授業評価力を育成する。	①観察に基づく学習者把握（意欲、知識、技能等）。②学習者の実態に基づく教材開発、教材研究。③授業理論の理解。③研究課題の把握。以上が達成できること。	取り組みへの意欲（観察）、学習者の実態把握（意欲・知識・技能）、授業論の理解、学級の実態把握、授業研究、教材開発に関するレポートのよる評価。
教育実践研究（国語）Ⅱ	渡邊春美・北吉郎	国語科における実践的研究力の向上を図る。	自己の研究課題に即して、 ①教材開発を行い ②指導計画を立て ③授業を実施し ④授業の考察を行い ⑤研究をまとめる	自己の研究課題に即して、 ①教材開発を行い、指導計画を立てることができたか。 ②授業を実施して、考察を加えることができたか。 ⑤研究を効果的にまとめることができたか。
教育実践研究（社会・地理歴史）Ⅰ	藤田　詠司	地理授業・歴史授業の内容・授業過程構成について，実践的・理論的に研究する。	計画・実施した授業の事実にもとづき，地理授業・歴史授業の内容・授業過程構成のあり方を論じることができる。	授業計画・実施40%，報告書60%で評価し，60点以上を合格とする。
教育実践研究（社会・地理歴史）Ⅱ	遠藤隆俊・藤田詠司	地理学習・歴史学習の教材内容について，実証的に研究する。	独自の調査と発表能力	出席と発表状況

授業科目名（○印は開放科目）	担当者	講義概要	達成目標	成績評価基準
教育実践研究（社会・公民）Ⅰ	藤田　詠司	公民授業の内容・授業過程構成について，実践的・理論的に研究する。	計画・実施した授業の事実にもとづき，地理授業・歴史授業の内容・授業過程構成のあり方を論じることができる。	授業計画・実施40%，報告書60%で評価し，60点以上を合格とする。
教育実践研究（社会・公民）Ⅱ	藤田　詠司	公民学習の教材内容について，実証的に研究する。	独自の調査と発表能力	出席と発表状況
教育実践研究（数学）Ⅰ	國本景亀・中野俊幸	算数・数学の授業指導や教材開発に関わる実践的研究。算数・数学の実践的研究力の向上をねらいとする。	算数・数学の授業設計や教材開発に基づき、授業や生徒の意識調査などを行う	調査アンケートの作成、授業案の作成などで評価する
教育実践研究（数学）Ⅱ	國本景亀・中野俊幸	教育実践研究Ⅰに引き続き、算数・数学の授業指導や教材開発に関わる実践的研究を行う。算数・数学の実践的研究力のさらなる向上をねらいとする。	授業設計、教材開発を行い、指導案作成ができる	授業構想、指導構想案の作成で評価する
教育実践研究（理科）Ⅰ	原田哲夫・蒲生啓司・中城　滿	理科の授業実践について、実践に即して理解を深めるとともに、その実践を可能にしている理論についての理解を深める。	授業参観等を基に理論についての理解を深め、学習指導案から教師の意味するところが理解でき、報告書が作成できる.	出席状況、授業参観への参加および報告書を総合的に評価する.
教育実践研究（理科）Ⅱ	原田哲夫・蒲生啓司・中城　滿	附属校園等において，単元計画作成，または実習計画案作成を行い実践的な課題研究テーマ設定の基盤を形成する.	附属学園の授業を基に作成したプロトコルが、授業理論に基づいて分析でき、報告書にまとめられる.	出席状況、プロトコルの作成及び報告書を総合的に評価する.
教育実践研究（英語）Ⅰ	那須　恒夫，多良　静也	附属校園等における英語授業の観察、授業研究をもとに、英語の授業指導や教材開発に関わる実践的な研究をおこなう。	英語科授業の問題を解決するために、附属小・中学校を活用して科学的な方法で検証することができるようになる。	研究計画の立案と実施（30%）、データの分析とまとめ（30%）、報告書の作成（40%）などを総合して評価を行う。
教育実践研究（英語）Ⅱ	那須恒夫・多良静也・谷口雅基	附属学校等における英語の授業を観察および授業法の研究を行い、英語の教育法および教材開発に関して実践的に研究する。	英語科授業の問題を解決するために、附属小・中学校または公立校を活用して科学的な方法で検証することができるようになる。	研究計画の立案と実施（30%）、データの分析とまとめ（30%）、報告書のまとめ（40%）などを総合して評価を行う。
教育実践研究（音楽）Ⅰ	山中　文	音楽教育に関する附属校園等の授業研究を基に、音楽の教材開発・授業構成に関する実践的研究をおこなう。	附属校園の授業研究を理解し、院生個々の課題による授業研究を行うことができる。	出席、授業内レポート、発表および討議の内容を総合する。
教育実践研究（音楽）Ⅱ	山中　文・高橋美樹	教育実践研究（Ⅰ）の成果をもとに、院生の専門分野を生かした教材開発・授業構成に関する実践的研究を進める。	教育実践研究Ⅰの成果を踏まえ、個々の課題のによる授業研究を発展することができる。	出席、授業内レポート、発表および討議の内容を総合する。
教育実践研究（美術）Ⅰ	金子宣正	附属校等における観察、授業研究をもとに、図画工作・美術の授業指導や教材開発に関わる実践的研究を行なう。	自分の研究テーマを十分に理解し、研究授業（実践研究）の分析を通して、論理的に結論を導き出すことができる。	出席状況、授業での研究成果、レポートの内容等を総合的に評価する。
教育実践研究（美術）Ⅱ	金子宣正	図画工作・美術教育に関する附属校園等での授業研究をもとに、表現および鑑賞の教材、指導法を分析し、実践的研究力をさらに深めることを目的とする。	自分の研究テーマを発展させ、研究授業（実践研究）の分析を通して、授業実践における教育的な効果について論理的に結論を導き出すことができる。	出席状況、授業での研究成果、レポートの内容等を総合的に評価する。
教育実践研究（保健体育）Ⅰ	刈谷三郎・神家一成	保健体育科教育において、授業指導や教材開発に関わる実践的研究力の育成をめざす。 保健体育科教育に関わる研究テーマを設定して、附属校園等における授業観察や授業研究を行う。その観察、授業研究の分析をもとに、保健体育科に関わる授業指導や教材開発を行う。	具体的なフィールドを活用することにより、保健体育科教育に関する授業研究を行うことができる。	授業研究に関する経過レポート及び最終論文の作成による。
教育実践研究（保健体育）Ⅱ	刈谷三郎・神家一成	保健体育科教育において、授業指導や教材開発に関わる実践的研究力の育成をめざす。 教育実践研究Ⅰの研究テーマをさらに深め検証していく。できれば修士論文に結びついていくことが望ましい。附属校園等における観察、授業研究をもとに、授業指導や教材開発に関わる実践的研究を行う。	教育実践研究Ⅰでの研究を再検証し、新たな視点で授業研究を行うことができる。	授業研究に関する経過レポート及び最終論文の作成による。
教育実践研究（技術）Ⅰ	増尾慶裕・道法浩孝	技術科教育における課題解決方法の構築	技術科教育における課題解決方法の構築できる。	出席、レポート、テストを総合的に評価する.
教育実践研究（技術）Ⅱ	増尾慶裕・道法浩孝	附属校等で実施されている授業の分析を通して，技術科教育における教材内容及び指導法について実践的に研究することを指導する.	授業の分析およびそれに基づく工夫・改善を，技術科教育の視点から実践的に行うことができる.	授業態度，レポート，発表・討議を総合して評価する.
教育実践研究（家庭）Ⅰ	菊地るみ子・小島郷子	家庭科教育および家政教育において、授業指導や教材開発に関わる実践的研究力の育成をめざす。	家庭科教育および家政教育において、授業指導や教材開発に関わる実践的研究力を育成する。	出席，ゼミ形式発表と文献解説の成果，およびレポート点を総合する.
教育実践研究（家庭）Ⅱ	菊地るみ子・小島郷子	家庭科教育および家政教育において、授業指導や教材開発に関わる実践的研究力を、さらに向上させる。	家庭科教育および家政教育において、授業指導や教材開発に関わる実践的研究力を、さらに向上させることができる。	出席，ゼミ形式発表と文献解説の成果，およびレポート点を総合する.

授業科目名（○印は開放科目）	担当者	講義概要	達成目標	成績評価基準
教育実践研究（教育方法）Ⅰ	島田　希	附属学校園等における授業観察・授業研究をもとに、教育方法学の観点から、授業指導や教材開発に関わる実践的研究を行う。	教育方法学の観点から、授業指導や教材開発に関する実践的研究を行うことができる。	出席、授業での発表、レポート等を総合して評価する。
教育実践研究（教育方法）Ⅱ	島田　希	実践研究Ⅰの成果をもとに、附属学校園等における授業観察・授業研究を行い、教育方法学の観点から、授業指導や教材開発に関わる実践的研究を深化・発展させる。	教育方法学の観点から、授業指導・教材開発に関わる実践的研究を深化・発展させることができる。	出席、授業での発表、レポート等を総合して評価する。
長期インターンシップ（国語）Ⅰ	渡邊春美・北吉郎	研究課題を明確にするとともに、学習者把握力、教材開発・教材研究力、授業構想力、授業評価力を含む実践的な力を育成する。	観察に基づく学習者把握（意欲、知識、技能等）。学習者の実態に基づく教材開発、教材研究。適切な授業計画。研究課題の把握。以上のことを長期的展望に立って行うこと。	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、研究計画書およびその作成過程に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（国語）Ⅱ	渡邊春美・北吉郎	研究課題を明確にするとともに、学習者把握、教材開発・教材研究、授業構想、授業評価に基づく授業を計画し実践することによって授業実践力を高める。	仮説に基づく授業計画の確かな実践、学習者の学びの成立と指導目標の達成、授業仮説の達成。	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、指導案、公開研究授業の実施内容や状況、実習報告書に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（国語）Ⅲ	渡邊春美・北吉郎	国語科における授業指導力・教材開発力の向上、および研究課題の設定	自己の実践研究課題に即して、 ①教材開発を行い ②指導計画を立て ③授業を実施し、授業考察を行う	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、授業研究会または事例研究会の企画・実施状況やそれまでの過程に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（国語）Ⅳ	渡邊春美・北吉郎	国語科における授業指導力・教材開発力の向上、および研究課題の設定	長期インターシップⅢでの授業考察に基づく反省点を踏まえて、 ①教材開発を検討し ②指導計画を検討し ③再授業を実施し、授業考察を行い ④研究をまとめる	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、事後報告会及び最終報告書やその実施及び作成過程に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（社会・地理歴史）Ⅰ	藤田詠司・遠藤隆俊	地理授業または歴史授業にかかわる長期インターンシップの準備を行う。	実習校に適した地理授業または歴史授業の単元計画を作成することができる。	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、研究計画書およびその作成過程に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（社会・地理歴史）Ⅱ	藤田詠司・遠藤隆俊	地理授業または歴史授業にかかわる長期インターンシップを実施する。	単元計画にもとづいて地理授業または歴史授業を行うことができる。	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、指導案、公開研究授業の実施内容や状況、実習報告書に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（社会・地理歴史）Ⅲ	藤田詠司・遠藤隆俊	地理授業または歴史授業にかかわる長期インターンシップの事前・事後指導を行う。	地理授業または歴史授業についての個々の指導実習を振り返り，次の指導実習の適切な準備を行うことができる。	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、授業研究会または事例研究会の企画・実施状況やそれまでの過程に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（社会・地理歴史）Ⅳ	藤田詠司・遠藤隆俊	地理授業または歴史授業にかかわる長期インターンシップの省察を行い，高度の専門知識・能力に裏づけられた実践的指導力を育成する。	実施した地理授業または歴史授業について，関連分野の研究方法に基づき省察することができる。	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、事後報告会及び最終報告書やその実施及び作成過程に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（社会・公民）Ⅰ	藤田詠司	公民授業にかかわる長期インターンシップの準備を行う。	実習校に適した公民授業の単元計画を作成することができる。	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、研究計画書およびその作成過程に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（社会・公民）Ⅱ	藤田詠司	公民授業にかかわる長期インターンシップを実施する。	単元計画にもとづいて公民授業を行うことができる。	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、指導案、公開研究授業の実施内容や状況、実習報告書に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（社会・公民）Ⅲ	藤田詠司	公民授業にかかわる長期インターンシップの事前・事後指導を行う。	公民授業についての個々の指導実習を振り返り，次の指導実習の適切な準備を行うことができる。	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、授業研究会または事例研究会の企画・実施状況やそれまでの過程に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（社会・公民）Ⅳ	藤田詠司	公民授業にかかわる長期インターンシップの省察を行い，高度の専門知識・能力に裏づけられた実践的指導力を育成する。	実施した公民授業について，関連分野の研究方法に基づき省察することができる。	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、事後報告会及び最終報告書やその実施及び作成過程に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（数学）Ⅰ	國本景亀・中野俊幸	算数・数学の授業指導力・教材開発力の向上、研究課題の設定をねらいとする。	授業指導力、教材開発力の向上、研究課題の設定ができる	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、研究計画書およびその作成過程に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（数学）Ⅱ	國本景亀・中野俊幸	長期インターンシップIに引き続き、算数・数学の授業指導力・教材開発力の向上、研究課題の設定をねらいとする。	授業が構想でき、研究課題を設定できる。	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、指導案、公開研究授業の実施内容や状況、実習報告書に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（数学）Ⅲ	國本景亀・中野俊幸	インターンシップIIに引き続き、算数・数学の授業指導力、教材開発力の向上、研究課題の設定をねらいとする。	授業指導力、教材開発を向上させ、研究課題が設定できる	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、授業研究会または事例研究会の企画・実施状況やそれまでの過程に基づいて評価を行う。

授業科目名（○印は開放科目）	担当者	講義概要	達成目標	成績評価基準
長期インターンシップ（数学）Ⅳ	國本景亀・中野俊幸	インターンシップⅢに引き続き、算数・数学の授業指導力・教材開発力の向上、研究課題の設定をねらいとする。	インターンシップⅢに引き続き、より深い研究課題ができる	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、事後報告会及び最終報告書やその実施及び作成過程に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（理科）Ⅰ	原田哲夫・蒲生啓司・中城　滿	受講生の希望と、附属学校園の受け入れ態勢を考慮して、具体的なテーマと目的を設定する。	授業参観及びその学習指導案を基に、授業者の意図が理解できる.	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、研究計画書およびその作成過程に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（理科）Ⅱ	原田哲夫・蒲生啓司・中城　滿	附属校園等において，単元計画作成，又は，実習計画案作成を行い，実践的な課題研究テーマ設定の基盤を形成する.	授業参観及びその学習指導案を基に、授業者の意図が理解できる.	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、指導案、公開研究授業の実施内容や状況、実習報告書に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（理科）Ⅲ	原田哲夫・蒲生啓司・中城　滿	受講生の希望と、附属学校園の受け入れ態勢を考慮して、具体的なテーマと目的を設定する。	授業参観及びその学習指導案を基に、授業者の意図が理解できる.	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、授業研究会または事例研究会の企画・実施状況やそれまでの過程に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（理科）Ⅳ	原田哲夫・蒲生啓司・中城　滿	附属校園等において，専修指導教員及び実習校指導担当者のもと，高度な専門知識・能力に裏付けられた実践的指導力を育成する.	授業参観及びその学習指導案を基に、授業者の意図が理解できる.	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、事後報告会及び最終報告書やその実施及び作成過程に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（英語）Ⅰ	那須恒夫・多良静也・谷口雅基	英語インターンシップに向けての準備 インターンシップの準備をおこなうために、受け入れ校を訪問し、連絡調整をおこなうと同時に、授業等の準備をおこなう。	公開英語研究授業に向けて指導案を作成することができるようになる。	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、研究計画書およびその作成過程に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（英語）Ⅱ	那須恒夫・多良静也・谷口雅基	長期インターンシップⅠで作成した単元計画に基づいた指導実習を実施し、公開研究授業をおこなう。または、実習計画にしたがって実習を実施する。	公開英語研究授業で計画した授業を実施することができる。	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、指導案、公開研究授業の実施内容や状況、実習報告書に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（英語）Ⅲ	那須恒夫・多良静也・谷口雅基	英語インターンシップに関わる事前・事後指導 英語の実習授業に向けて授業案の作成，指導法，および実習後の課題について検討する。	生徒や自己、検討会による授業評価に基づいて、振り返ることができる。	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、授業研究会または事例研究会の企画・実施状況やそれまでの過程に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（英語）Ⅳ	那須恒夫・多良静也・谷口雅基	長期インターンシップで実施した学生の実習について、実践研究に関わる関連分野の研究方法に基づき省察することを通して、高度の専門知識・能力に裏づけられた実践的指導力を育成する。	具体的に授業改善の視点をもち、授業実戦に向けて意欲的に取り組むことができるようになる。	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、事後報告会及び最終報告書やその実施及び作成過程に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（音楽）Ⅰ	山中　文・高橋美樹	インターンシップに向けて、音楽科カリキュラムの年間カリキュラムを見通し、実習計画を作成する。	音楽科の年間カリキュラムを構想し、実習計画を作成することができる。	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、研究計画書およびその作成過程に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（音楽）Ⅱ	山中　文・高橋美樹	長期インターンシップⅠで作成した単元計画に基づいた音楽指導実習を実施する。または、実習計画にしたがって実習を実施する。	単元計画や実習計画に基づいた実習を実施することができる。	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、指導案、公開研究授業の実施内容や状況、実習報告書に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（音楽）Ⅲ	山中　文・高橋美樹	長期インターンシップⅡで実施した公開研究授業や実習に関わる事前・事後指導を行い、実習の計画や実施後の課題について指導する。	実習の実施において、事前の準備・細案の検討を行い、また事後の課題をとらえることができる。	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、授業研究会または事例研究会の企画・実施状況やそれまでの過程に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（音楽）Ⅳ	山中　文・高橋美樹	長期インターンシップⅡで実施した実習について、実践研究に関わる関連分野の研究方法に基づき省察することを通して、高度の専門知識・能力に裏づけられた実践的指導力を育成する。	実習を省察し、多角的な視野から指導を見直すことができる。	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、事後報告会及び最終報告書やその実施及び作成過程に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（美術）Ⅰ	金子宣正	図画工作・美術の授業指導力・教材開発力の向上をめざし、附属校園等において児童・生徒への指導の補助を行ないながら、教材研究、学級経営、児童生徒の観察、調査等に基づき単元計画を作成する。または、観察、検査、調査等を実施し、それに基づく実習計画の作成をする。	研究課題を明確にし、学習指導要領や評価規準への理解に基づいた適切な授業計画を立案でき、模擬授業等の実習内容をよく分析し、綿密で実践的な指導案を立てることができる。	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、研究計画書およびその作成過程に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（美術）Ⅱ	金子宣正	図画工作・美術の授業指導力・生徒理解力の向上をめざし、長期インターンシップⅠで作成した単元計画に基づいた指導実習を実施し、公開研究授業をおこなう。または、実習計画にしたがって実習を実施する。	研究課題に基づき、学習指導要領や評価規準をふまえた実習を行なうことができ、インターンシップ実習の内容を随時よく分析し、実践を通して授業指導力を身につける。	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、指導案、公開研究授業の実施内容や状況、実習報告書に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（美術）Ⅲ	金子宣正	図画工作・美術の授業計画力・教材開発力の向上をめざし、長期インターンシップⅡと同学期に開講し、実習の事前・事後研究をおこなう	毎回の実習における問題点を明らかにし、自己の実習内容を客観的に分析することができる。	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、授業研究会または事例研究会の企画・実施状況やそれまでの過程に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（美術）Ⅳ	金子宣正	長期インターンシップⅡで実施した実習について、実践研究に関わる関連分野の研究方法に基づき省察することを通して、高度の専門知識・能力に裏づけられた実践的指導力を育成する。	インターンシップ実習の省察を通して実践的指導力及び教材開発力を身につけ、教育実践を理論的に纏めることができる。	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、事後報告会及び最終報告書やその実施及び作成過程に基づいて評価を行う。

授業科目名（○印は開放科目）	担当者	講義概要	達成目標	成績評価基準
長期インターンシップ（保健体育）Ⅰ	刈谷三郎・神家一成	授業指導力ならびに教材開発能力の向上および研究課題の設定をねらいとした授業	現在の教育課題に対応した授業の在り方を検討し、その知見を踏まえた単元計画を作成することできる。	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、研究計画書およびその作成過程に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（保健体育）Ⅱ	刈谷三郎・神家一成	長期インターンシップⅠで作成した単元計画に基づいた指導実習を実施し、公開研究授業をおこなう。または、実習計画にしたがって実習を実施する。	作成した単元計画に基づいた指導実習を実施することができる。	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、指導案、公開研究授業の実施内容や状況、実習報告書に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（保健体育）Ⅲ	刈谷三郎・神家一成	授業指導力ならびに教材開発能力の向上および研究課題の設定をねらいとした授業	実施した実践授業を分析し、その問題点及び改善策を導き出すことができる。	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、授業研究会または事例研究会の企画・実施状況やそれまでの過程に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（保健体育）Ⅳ	刈谷三郎・神家一成	長期インターンシップⅡで実施した実習について、実践研究に関わる関連分野の研究方法に基づき省察することを通して、高度の専門知識・能力に裏づけられた実践的指導力を育成する。	指導実習を関連分野の研究方法に基づいて分析検討し、報告することができる。	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、事後報告会及び最終報告書やその実施及び作成過程に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（技術）Ⅰ	増尾慶裕・道法浩孝	技術科教育における単元計画や実習計画の作成をする。	技術科教育における単元計画や実習計画の作成ができる。	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、研究計画書およびその作成過程に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（技術）Ⅱ	増尾慶裕・道法浩孝	Ⅰで作成した題材計画に基づいて指導実習および公開研究授業を行う。	指導計画に基づき，授業を実施することができる.	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、指導案、公開研究授業の実施内容や状況、実習報告書に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（技術）Ⅲ	増尾慶裕・道法浩孝	技術科の指導を行うための実習の準備ができる。	技術科の指導を行うための実習の分析ができる。	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、授業研究会または事例研究会の企画・実施状況やそれまでの過程に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（技術）Ⅳ	増尾慶裕・道法浩孝	Ⅱで実施した指導実習を実践学の立場から省察する。	指導実習の成果を，教育実践研究に関わる研究手法に基づきまとめることができる.	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、事後報告会及び最終報告書やその実施及び作成過程に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（家庭）Ⅰ	菊地るみ子・小島郷子	授業指導力ならびに教材開発能力の向上および研究課題の設定をねらいとした授業	授業指導力ならびに教材開発能力の向上および研究課題の設定することができる。	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、研究計画書およびその作成過程に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（家庭）Ⅱ	菊地るみ子・小島郷子	授業指導力ならびに教材開発能力の向上および研究課題の設定をねらいとした授業	長期インターンシップⅠで作成した単元計画に基づいた指導実習を実施することができる	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、指導案、公開研究授業の実施内容や状況、実習報告書に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（家庭）Ⅲ	菊地るみ子・小島郷子	授業指導力ならびに教材開発能力の向上および研究課題の設定をねらいとした授業	授業指導力ならびに教材開発能力の向上および研究課題の設定することができる。	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、授業研究会または事例研究会の企画・実施状況やそれまでの過程に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（家庭）Ⅳ	菊地るみ子・小島郷子	授業指導力ならびに教材開発能力の向上および研究課題の設定をねらいとした授業	長期インターンシップⅡで実施した実習について、関連分野の研究方法に基づき省察することができる。	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、事後報告会及び最終報告書やその実施及び作成過程に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（教育方法）Ⅰ	島田　希	授業指導力ならびに教材開発能力の向上および研究課題の設定をねらいとし、単元計画、研究計画書を作成する。	授業指導力ならびに教材開発能力の向上を目指した単元計画および研究計画書を作成することができる。	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、単元計画、研究計画書およびそれにむけたとりくみに基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（教育方法）Ⅱ	島田　希	長期インターンシップⅠで作成した単元計画に基づいた指導実習を実施し、公開研究授業をおこなう。または、研究計画書にしたがって実習を実施する。	長期インターンシップⅠで作成した単元計画および研究計画書にもとづき、指導実習を実施することができる。	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、指導案、公開研究授業の実施内容や状況、実習報告書に基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（教育方法）Ⅲ	島田　希	長期インターンシップⅡで実施した実習について、実践研究に関わる関連分野の研究方法に基づいて分析することを通して、その成果、問題点を明確化し、改善点を導き出す。	実施した指導実習を分析し、その成果、問題点を明確化し、改善策を導き出すことができる。	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、授業研究会、事例研究会の企画・実施状況やそれにむけた取り組みに基づいて評価を行う。
長期インターンシップ（教育方法）Ⅳ	島田　希	長期インターンシップⅡで実施した実習について、実践研究に関わる関連分野の研究方法に基づいて省察することを通して、総合的に分析・検討し、まとめる。それにより、高度な実践的指導力を身につける。	実施した指導実習を関連分野の研究方法に基づいて省察および分析し、報告することができる。	専攻指導教員と附属担当指導教員が協議のうえ、事後報告会及び最終報告書やその実施及び作成過程に基づいて評価を行う。
小中学校理科実験演習	國府俊一郎・普喜満生・蒲生啓司・西脇芳典・原田哲夫・伊谷　行・赤松　直	本授業では，教育の現場で日常的に起きている実験上・指導上の問題点を事前にクローズアップし，小中学校の各分野（物理・化学・生物・地学）に対応した実験における基本技能の理解と習得、子どもが自己課題を持ち得る実験内容の検討およびそれに伴う知識供与を行う。	小中学校の各分野（物理・化学・生物・地学）に対応した実験における基本技能を習得し、実験の内容に応じて理科の授業実践に活かすことができる。	出席状況，実験レポートおよび設定された課題に対するレポートの提出に基づいて評価する。